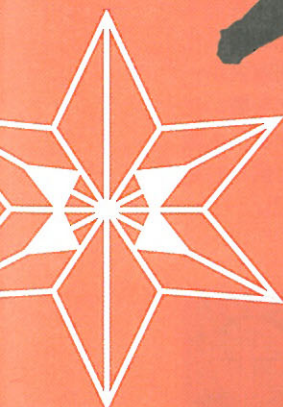


六稜会報



INDEX

六稜同窓会ホームページ 誕生の経緯 石田雅明	2
生きて働く伝統 秋田典昭	4
私の少年時代 水島清平	5
わか校舎わがグラウンド(2) 鉄棒の思い出 山田文一	8
いつ頃からか補習科があった 大谷昌平	8
化学研究部の青春 梶本興亜	8
地学研究部 新保松正徳	9
美術部のこと 臨村隆久	10
懐かしさと寂しさと羨ましさと 加藤 寿	11
反響「六稜会館物語」 滝井尚三、生駒幹三、ほか	12
会務報告+会計報告	14
会員News 「漢詩動物誌」、笹部校、南宮文化 館、心斎橋、仏芸術文化館、新道 音楽家、殉難追憶、ほか	15
PARTY REPORTS	16
123周年総会、東京六稜会40回総 会、岡山六稜会、六稜親梅会、北 中碑の集い、バレー部50周年、水 友会、金鹿さき酒会、四五会、60 期西園巡拝団、東京76期会、78期 会、79期会、81期会、99期会、六稜 ゴルフの集い、ほか	
母校の窓	20
職員異動、全国大会出場激励金、 文化祭記念講演、クラブだより	
大学合格者一覧	23

Netscape: The RIKURYO Alumni Association of Kitano High School

Back Forward Reload Home Search Guide Images Print Security Stop

Location: <http://www.rikuryo.or.jp/>

ホームページ

アーカイブ

ミュージアム

ディレクトリ

事務局から

webmaster

(C)1997
Copyright by
六稜同窓会
All rights reserved.
Designed by
T&T Design Lab

大阪府立北野中学校(旧制)
大阪府立北野高等学校

六稜同窓会

since 1873

★北野はいま...

- 校内の風景 **Soon!**
- 行事あんない
- クラブ掲示板【運動部】
- クラブ掲示板【文化部・同好会】
- 校舎改築速報
- 十三界隈みてある記【阪急編】

★母校の歴史

- 沿革
- 思い出アルバム **Soon!**
- 歴代校長先生
- わがまち大阪とともに **NEW!**

★六稜のひと

- 恩師を訪ねて **Soon!**
- われら六稜人 **Soon!**
- 六稜ブレイガイド

★六稜のホームページ(HP)をともに創ろう!

ただいまHP開設準備委員会では「同窓会のHP」について一緒に議論できるメンバーを募集しています。卒業年度(または期)と氏名、およびe-mailアドレスを明記のうえ、下のメーリングリスト(ML)まで投函してください。折り返し、登録させていただきます。

rikuryo@iijnet.or.jp (ML)

Last Update: Aug.23,1997

NO.31
1997.9.15

待望の公式ホームページ...9月23日、遂に完成!!
<http://www.rikuryo.or.jp/>

(See.→ p.2)

六稜同窓会ホームページ 誕生の経緯

六稜同窓会ホームページ開設準備委員会
石田雅明(73期)

世は正にインターネット時代。これを使った犯罪や、個人のプライバシー侵害など、色々な問題が起こり、インターネットそのものの是非まで話題になっている。まだまだインターネットが登場して日が浅く、人類がこれをプラスに利用できるか、マイナスにしか利用できないか…試行錯誤と煩悶の時期にあると言えるかもしれない。

そんな中、六稜同窓会は世界に通用する「これこそ同窓会ホームページの模範」と言えるホームページを目指して、半年にわたる熱い議論と膨大な資料の収集を経て、ついにその誕生を見た。

若き同窓生との縦のつながり

同窓会の定義は今さら述べるまでもないが、同じ学窓で学んだすべての世代が集う場所である。六稜同窓会は世にも珍しいほど横のつながりは強い。各期の同窓会が極めてにぎやかに開催されている。ところが、悲しいかな縦のつながりとなると希薄である。総会に参加するのは、ほとんどが50歳以上の同窓生である。

確かに、同窓会というものは「昔を懐かしむ」場所というのがそのベースではある。「ノスタルジア」「青春への回帰」これをもって同窓会の最大の意義であるとするなら、若き同窓生にとっては無縁の場所である。「若い人が出てこない」と嘆く声をよく耳にするが、出てこようという動機付けが無いのだから出てこないのが当たり前なのかもしれない。

六稜同窓会ホームページは、世代を越えて年寄りも若者も対等に集える場所としての目的意識で誕生した。父、母、祖父、祖母、あるいはそれ以上に世代の離れた先輩たちとフェイス・トゥ・フェイスで、対等の立場でのコミュニケーションを求めるのは困難である。しかし、ホームページ上では全く対等の立場でコミュニケーションが計れるはずである。縦のつながりを強める手段の一つとして、このホームページがいささかなりとも機能してくれば、これほど嬉しいことはない。

北野文化、そして大阪文化の情報発信

124年の歴史を有する北野、124年の間に北野が蓄積してきた人材と文化は、計り知れないほど大

きな力として今日を迎えている。『北野百年史』を始め、これまでも数多くその文化を発信する試みがなされている。このホームページはその一角を担うことも又、大きな使命のひとつである。150周年、200周年へと永遠の六稜文化を蓄積し、発信する場所としての機能も持つ。さらに、北野の文化はイコール大阪の文化でもある。六稜同窓会ホームページは大阪文化の情報発信にも重きを置いた心算である。ここを開ければ大阪が分かる、大阪を知りたいればここを開ければよい…と言われるようなホームページにしたいと思っている。

ホームページのコンテンツ

1.北野はいま…

同窓生にとって現在の母校の現状を知ることが大きな関心事であるに違いない。同窓会では母校とも密接に連絡を取りながらホームページ上で様々な面からリアルタイムに情報を提供する。旧校舎の解体、新校舎および同窓会館の建設の進捗状況などをビジュアルに伝えることにも重きを置いている。



2.母校の歴史

沿革はもとより、歴代校長の紹介、思い出のアルバムなどで北野を振り返ることも一つの役割である。また、北野文化は大阪文化なしには語れない。わがまち大阪とともに歩んだ足跡を、脇田修さん(62期)のエッセイで綴るほか、「大阪学」関連書籍のインデックスも…近く紹介する予定である。

3.六稜のひと

懐かしい恩師を訪ねて、近況やお話を伺えるのもインターネットならではの趣向といえよう。さらに六稜の土壌が育んだ人材の紹介も忘れてはならない。われら六稜人では、いわゆる著名人だけではなく「え？こんな人が六稜…」という発掘を順次紹介していきたい。自薦他薦を問わず、情報をお待ちしている。なお、記念すべき第1回は我々が森繁久彌さん(45期)に登場いただく。

4.六稜アーカイブ

これまでに六稜同窓会が発行した刊行物を集め、できる限り忠実に次代に遺そうという趣旨のコーナー。本誌『六稜会報』(年刊)は創刊号から最新号までを網羅するとともに、100周年誌を代表とする周年記念刊行物や、修学旅行・各種講演のインデックス等も、すべてここに収容していく予定である。



六稜アルマナックでは、水泳大会や体育大会、断郊競走といった…主にスポーツの記録類を中心

に、北野での懐かしい生活を振り返る。

5.六稜ミュージアム

六稜には絵画、彫刻、書画、工芸、建築、文芸、書籍、作曲、戯曲、映像、デザイン等…たくさん文化が蓄積されている。このコーナーでは、そうした六稜芸術を集約して紹介する予定である。



6.六稜ディレクトリ

同期会が独自に開設しているホームページや同窓会個人が運営するホームページ等へのリンク集。原則的には、企業のホームページでも利益追求中心でない限り、リンクできるように考えている。登録を希望する人は遠慮なく申し出ていただきたい。また、大阪フリーク必見の関連ホームページ集も一興であろう。



7.六稜トラスト

名簿や基金の管理、各種催し物のお知らせ等…同窓会事務局からの連絡やお願いを掲載する。



ホームページのこれから

六稜同窓会ホームページは、69期から104期まで…総勢30名弱の開設準備委員が同窓会常任理事会・理事会の承認のもとに半年にわたり開設準備を進めてきた。「六稜」の名に恥じない公式ホームページが出来上がったものと確信している。

準備委員会は、この9月23日の開設をもってその役割を終え、いったん解散となる。しかし、このスタートを切ったばかりのホームページを今後どのように発展させ、どのように維持管理していくか…については、新たに運営委員会を組織、発足させ、より一層同窓会にとって有益な情報伝達と文化の蓄積手段となるように尽力したいと願っている。

同窓会員であれば誰もが運営委員会のメンバー

になる資格がある。コンピューターやネットワークの専門家のみならず、色々な分野から色々な発想を持った人たちが、忌憚無く意見を述べていただけることを切望している。

開設準備委員会では「どのようなホームページを作り上げるか」尋常ではない情熱を持って議論を重ねてきた。しかし、実際に顔を合わせたのはほんの数回に過ぎず、殆どはメーリングリスト(ML)の活用で、驚くべきことに2,000通を超える電子メールのやりとりが中心となった。

69期から104期まで…実に45歳の世代格差がありながら、ML上での議論は全くその格差を感じさせず「縦のつながりが、かくも強固に実現したのは歴史的な出来事であった」と思う。

新たに発足する運営委員会では、その枠をさらに広げ、真の意味での同窓会の「場」として育てていきたい。ぜひ…若い皆さんは委員会への参加を申し出てほしい。

●六稜同窓会ホームページ

<http://www.rikuryo.or.jp/>

●六稜ホームページ運営委員会ML

rikuryo@iijnet.or.jp

参加ご希望の方は、氏名・期(卒業年次)・E-mailアドレスを明示のうえ、上記MLまでお申し込みください。老若男女・自薦他薦を問いません。

※本誌では、紙面に限りがあるため掲載できなかったような情報も、ホームページだと物理的な分量の制約がないため、事実上、無限に情報を掲載することが可能です。個展や演奏会、そのほか…六稜同窓会が関係する各種催しもの情報を下記 E-mail までどしどしお寄せください。ただし、公序良俗に反するもの、および著しく営利に関わるものは運営委員会で選考のうえ除外させていただくことがあります。ご了承ください。

六稜インフォメーション

<http://www.rikuryo.or.jp/info/>

info@rikuryo.or.jp

■東京六稜会からのお知らせ

6月5日の東京六稜会総会にて会長の交代と一部役員の異動があった。新体制は次の通り。

- 会長 大山利雄(56期)
- 顧問 河崎晃夫(49期,前会長)
竹井泰二(59期)
- 常任幹事 岩木俊(63期)、高端正直(68期)、大谷昌平(69期)、石垣具子(69期)、竹村二郎(73期)、深山欣秀(74期)、黒岩暎一(75期,事務局)、清水知子(75期,会計)、藤田勝彦(90期,会計)
- 年度幹事 各年度ごと

※お問い合わせは…東京六稜会事務局
Tel.& Fax.0467-43-3444
e-kuroiwa@ns-kansai.co.jp
<http://hamachi.ns-kansai.co.jp/t-rikuryo/>

■六稜同窓会事務局長交代

六稜同窓会事務局長の新原知廣さん(72期)が健康上の事由により辞任された。新原さんは1994年5月に事務局長に就任し、事務局の強化をはかり同窓会の円滑な運営に努めてこられた。特にコンピュータによる名簿管理を軌道に乗せ、

昨今盛んな同期会やクラブOB会のバックアップに積極的に取り組まれた。3年余のご尽力に感謝するとともに、健康に留意されて今後の同窓会活動にご協力くださるようお願い申し上げます。

新事務局長は9月初めの臨時常任理事会で選出され、会長から任命されることになっている(9月23日開設の六稜同窓会ホームページでお知らせする)。

生きて働く伝統

名誉会長・学校長
秋田典昭



【あきた・のりあき】昭和16年広島県に生まれる。35年私立修道高校卒業。40年京都大学文学部哲学科卒業。42年県立静岡東高、46年府立三島高、49年大阪教育大附属高、56年府立春日丘高、58年府立柴島高の教諭を歴任。61年より大阪府科学教育センター、平成6年より大阪府教育センターに勤務。8年同センター次長心得兼教科教育部長を経て本年4月本校校長として着任。専門教科は国語。

1.流汗悟道 昨年十月に社会福祉法人北海道家庭学校を訪れる機会を得た。ご承知の方も多いと思うが北海道家庭学校は、留岡幸助が大正3年、北海道紋別郡遠軽町にその基礎を築いた学校である。学校という名を冠しているが、社会福祉法人であるところからも伺えるように、親からも社会からも見捨てられた非行少年たちが学び生活する場である。私がこの学校にかねてから深い関心を寄せたのは、家庭や社会がその教育を放棄した少年たちに対して、この学校が大きな教育力を発揮している点にあった。私自身も多少なりとも荒れた少年たちの教育に携わった経験があり、その時に自分の無力さをいやというほど思い知らされている。それは、まさに敗北の毎日であった。そういう自分の体験に照らしてみても、北海道家庭学校がその教育効果をあげているということは、私の想像を絶することであった。もちろん、谷昌恒校長をはじめとする優れた先生がおられるから、そのような教育が可能となったのはいうまでもないが、私のような凡人にも何か参考になるようなことがあるのではないか。そのためには、学校の実際をこの目でみたいという願いが以前からあった。北海道の秋は、大阪より一足早く、見事なまでの全山紅葉の連なりは遠軽までの行程を和ませてくれた。校門から本館に至る長いアプローチの途中にある寮の前では、黙々と農作業をしている少年がやさしい目をして、暖かく声をかけてくれた。その後、谷昌恒校長の案内で436ヘクタールに及ぶ校地の一部と教室などの施設をみせていただいた。その説明の中で最も印象に残ったのは、「流汗悟道」という言葉であった。少年たちは、ここで敢然と厳しい自然に挑戦し、共に汗を流し、学ぶ。そのことによって、くじけない強い精神力が自ずと育ち、それが社会を生きて行く大きな力となっているとのことであった。

2.厳しさと教育 私たちの生きたかつての時代は、汗を流すということはあまりにも当たり前で、汗を流さない生活に憧れたものであった。当然、汗を流すことや困難さ、厳しさに立ち向かうことの

教育的効用については考えもしなかったし、親たちも子どもたちにそうした苦しい生活や厳しい労働を味わわせないことを考えて懸命に働いた。その結果として、日本は本当に豊かになった。そして、そういう豊かな時代を反映して、野生とか、荒々しさは敬遠される時代になった。タバコをはじめ、食べ物はマイルドな味がもてはやされ、自動車のボディの形はかつての角張ったスタイルから、丸くゆるやかにカーブしたものとなった。そして、男性にもやさしさが求められる時代となった。もちろん、こうした豊かな時代は実に血のにじむような努力の末に獲得されたものであった。だが、そうした豊かさは子どもたちの教育においては何をもたらしたのか。豊かさは、環境の中における厳しさを可能なかぎり排除しようとするものである。大きく成長しようとする時代に、厳しさが排除されればどういう結果になるか。学ぶことのできる時間が保障され、学ぶための多くの手段と機会が提供されたとしても、そこで学ばれたものはどういう意味を持つのか。厳しさを抜きにした教育は、自ら困難を切り開き、他人の痛みを痛みと感じ、自分の責任において実りある人生を創造できるのだろうか。豊かさ故に忘れられようとしている厳しさ、そこに現代教育の危機を見るのは私一人ではないであろう。北海道家庭学校における「流汗悟道」の精神が、子どもを大きく変える力を発揮しているのは、その根底に厳しさへのチャレンジがあるからである。

3.伝統の意味 私は北野に着任して、生徒の日々の活動を見ていて、生徒に深く敬意を抱いている点がある。それは生徒の自己を律する厳しさである。それは、授業において、行事において、部活動において、学校活動の随所に見られる。その若者らしい懸命さに私は心をうたれる。それは強制されたものではなく、自ら求め、自ら課した厳しさである。そうした自らに課した、他を圧倒する厳しさを通して、これまでも北野生は精神的にも肉体的にも大きく成長し、各界をリードする有為の人材となったのである。この自己に対する仮借のない厳しさこそ、まさに北野の伝統であり、校風である。ある人に、「教えは耳から入るだけではない、毛穴からも入る」と教えられたことがある。その学校に、その教室に、そのグラウンドに身を置くだけで、自ずと自らを厳しく律してしまう、自らに厳しい課題を課してしまう。長い時間の中の先輩の生きざまが、建物に、教室に、グラウンドに染み込み、それが現在の生徒に目に見えない形で大きく影響する。これが伝統の重みであろう。そういう伝統に鼓舞され、自らを大きく成長させている生徒とともに、さらに新たな伝統を教職員心を一つにして作っていききたいものである。

私の少年時代

水鳥喜平



【みずとり きへい】明治36年3月生。昭和元年より24年まで本校に在職。

私の故郷は愛知県吉良町で、忠臣蔵で悪名高い吉良上野介の領地である。上野介は愛妾富子の方のために新たに塩田を造り、製塩を始めた。これが赤穂との仲違いの原因の一つと言われている。

私の父は塩問屋であった。塩の売買が大蔵省専売局に移ったのは多分明治三十八年のことと思う。父が問屋をしていたのはそれ以前のことである。父は船を二隻持っており、主として静岡市へ運んでいたようだ。運悪く一隻は遠州灘で、他の一隻は吉良港の入口で難破し、船頭も船員も死に、父は身代限り(破産)した。父は大変恥じたのか「塩」のことは一切口にしなかった。従って祖父も祖母も母も、誰も話さなかった。

私は男ばかりの兄弟五人の末っ子で、いつも母のお尻にくっついていたので、母が時々愚痴をこぼすのを聞いただけであった。ほんとうに知ったのはずっと後、私が小学校高等科二年の時、父が「これを宝財屋へ持って行け」といって金十八円を渡した時であった(大正五年)。

宝財屋へ行ってお金を渡すと番頭は半ば独り言のように、また半ば私に聞こえるように、「もう五百七十六円になったなあ」と言った。それで私は大体想像した。父の身代限りの時、田舎であるので、全財産を売ったのであるが、家と屋敷だけは残してくれ、不足の金額は全部宝財屋にまとめ、父は盆、暮に十八円ずつ払うということ、そしてその金額がやっと五百円台になったこと。十八円は今では問題にならない金額であるが、父は盆、暮に十八円払うのに大変苦しんでいたようだ。母と密談していたのは、この金のことであったのだ、何とか父を楽にしてあげたいと思った。

父は破産後、代書人をしていた。そして司法書士の制度ができるとすぐ司法書士になった。村に二人しかいなかったのだから、村では一寸した知識階級であったが、現在と違い土地、家屋の売買はほとんど無い。従って収入も少なかった。

身内の自慢はすべきでないことはよく知っているが、私の父も悪いことばかりでなく、良いことも少しはあった。一つだけ書かせていただく。

私が小学四年の時、父の机上で厚い書類を発見した。美濃紙の野紙に算用数字が墨で丁寧に全面に書いてある。何であるかさっぱり分らない。父に聞く。「村の白浜の海岸線の工事の監督に県庁から二人の技師が来られた。数字の表を出して計算しておられた。すぐ答が出る。大変便利だ。それで使っておられない時、借りてうつし書いた。時々使っている。とても便利だ。」私は「ふうん」と言っただけでさっぱり分らなかった。それから何年か経って中学五年になり「三角」を教わった時、それが「三角関数表」であることを知った。あの関数表を筆でよく書いたその根気に感心した。

後を継いでいる兄に「これは家宝だ。大切にしてくれ」と頼んでおいたが、昭和二十年二月十三日の三ヶ根山地震(大地震が戦争中のため殆んど報道されなかった)で家もろとも津波に攫われてしまった。残念である。

長兄、次兄は小学校を卒業すると(当時は義務教育は四年)すぐ年季奉公に、三兄は郵便局へ、四兄は海軍志願兵にという具合で衣食だけは何とか済ますことができたが、父母にお金を持って来ることはできなかった。そんな時であったが、父は私を高等科へ行かせてくれた。尋常六年の時に愛知県全部の六年生に読み方と算術の同一問題の試験があった。試験の監督は他の学校の先生がされた。二ヵ月位後、先生が授業時間中に「喜平が算術は郡中一番であった」とだけ言われた。また尋常科の卒業式では私が総代であったから、父も無理をしたのかも知れない。或いは先生が父に頼んで下さったのかも知れない。

高等科へ行くと新聞配達の仕事があった。前年までは名古屋にある二つの新聞(新愛知と名古屋新聞)の配達は私の住む吉田村から十キロばかりの西尾町(現西尾市)から配っていたが、こんど吉田村に配達所ができた。西尾町から配達する時は、新聞の配達は大体正午以後であった。配達夫は常に私の家で弁当を食べていた。吉田村になると午前七時着の一番の軽便鉄道の汽車で到着する。それを配達所まで持って来て、配達夫は自分の分だけ受取り、もう一度数え、折だたみ、配達に出発する。私の区域は大字富好新田で、戸数は百戸余であるが購読者は三十戸位しか無かった。それでも富好新田の端から端まで行かなければならない。汽車の着くのは七時、学校の始まるのは八時、夏も冬も同じである。私は毎日遅刻する。それでも先生は叱らなかった。その上高等科の卒業の時も卒業生総代にしてくださった。今でも感謝している。

前にも書いたが兄は四人とも、年季奉公或いは

それに準ずる仕事をしているので、父を助けることはできない。私は何か良い方法は無いか考えた。

世の中には下には下があるものだ。父がこんなに生活に苦しんでいるのに、父の従妹が夫と共に、数年前のことであるが、転がり込んで来た。物置き小屋を改造して世話をしていた。二、三年後再び東京へ行き鉄道院大井工場で工夫になり、どうにか生活しているのを思い出した。私はその工場に私を職工見習いに備うよう頼んでくれと手紙を出した。戸籍謄本を送ったりしてやっと許可が出た。

大正六年十一月十五日、衣類や弁当のはいった信玄袋を担ぎ十五分歩いて軽便鉄道の吉良吉田駅へ行った。母は送って来て、東京の品川駅までの切符(三円三銭)を買ってくれ、金一円をくれ「もっとやるといいが東京で辛い時、帰りの汽車賃があると逃げて来るといけないから渡すことはできない」と言った。私は自分の金を五十七銭持っていたから、金一円五十七銭持って、午前七時五分発の軽便汽車に乗り母に送られて故郷を立った。岡崎駅で東京行きの大きな汽車に乗換え、午後七時少し前品川駅に着いた。途中富士山が実に美しかった。プラットホームには父の従妹の夫が来てくれていた。

翌朝、父の従妹に鉄道院大井工場へ案内して買った。身体検査が済んでもなかなか呼び出しが来ない。駄目かと心配になった。しばらくすると係の人が来て「お前は身体検査は通ったが、年が足りない。本当は備うことはできないが折角愛知県から来たのだから備ってやる。来年の三月十一日(私の誕生日)まで怪我をしなさいかんぞ」と言うて辞令を渡された。それには「日給三十六銭」と書いてあった。午前七時から午後五時まで働いて三十六銭である。これでは生活はできない。もう二時間、午後七時まで働くと七銭二厘貰える。それで毎日残業をした。

もう一つの給与体系があった。それは請負制で、熟練工になると仕事一つひとつに値が付いていて、それを早くやればそれだけお金が貰える。換言すれば、前のは「最低賃金制」である。それで私は熟練工に早くならうと励んだ。また熱海の丹那山トンネルの落盤事故の時(大正七年四月一日)には八日間不眠不休で働き、トンネル側の信用を得、数カ月招かれて働いた。これは出張費が付くので大いに儲かった。その上第一次世界大戦後のインフレーションに助けられたので、父の借金は全部私が支払った。母は涙を流して「喜平、有難う」と何回も言った。父は自分の借金を二十歳にならない末っ子に払わせたことを残念に思ったのである

う、何とも言わなかった。

その頃、労働運動が始まった。仙台の酒造家の御曹子で東大法学部出身の鈴木文治氏が友愛会(後の日本労働総同盟)を造った。私も会員になった。大正九年五月二日、日本最初のメーデーを上野公園で行なった。メーデーは五月一日に行なうのであるが、我が国初めてのメーデーであるから失敗を恐れて二日の日曜日に行なった。私も参加した。上野公園へ行くと巡査が一杯いるのに驚いた。ここで演説会を開いた。演壇の下に二人巡査が立っていた。だが「弁士中止」は一人も無かった。

それから日比谷公園までデモ行進に移った。私の部隊は最後尾であった。上野公園を出るとすぐ警官隊と衝突。四つ辻ごとに衝突を繰り返すので遅々として進まない。万世橋まで来た時、私は疲れたので、院線電車(後の国電)に乗って帰った。翌日の新聞には上野公園に集ったのは約五千名、日比谷公園へ着いたのは約百五十名と書かれていたように憶えている。

そのころの労働者は新聞も殆んど読まない。暇があれば博打をうつ、金があれば酒をのむ、暇と金があれば女郎をかいに行く、いわゆる「のむ」「うつ」「かう」であって、家庭争議は絶えない。給料日には工場の門前に飲み家の女将や金貸しなどが列をなして、工員の出て来るのをきつい目をして待っているのが常であった。

これでは労働組合の要求する「八時間労働」「最低賃金」も役に立たない。教育、少なくとも新聞を毎日読む習慣をつける教育が必要だ。それで私は学校の先生になりたい、できれば英語の先生になりたいと思った。当時私には西洋人は人間と神様との中間に居るもののように思われたから、英語を学び彼等の生活に近づいた生活を労働者もするようにしたいと思った。

学校の先生になるには、先ず中学校を出なければならぬ。私は夜学に通っていたが、夜学は各種学校で、夜学の中学校は一つもなかった。昼の学校へ行かねばならぬ。調べて見ると、東京に中学校は五十余校あるが五学年へ入れてくれる学校は一校もない。四学年三学期に入れてくれる学校もない。後で知ったのだが各学年とも三学期には入れないことにしている。現在もそうだ。それで最も短く中学を卒業するには四学年の二学期に編入することであった。調べると三校だけあった。私は通学の便から水道橋駅に近い大成中学校を選んだ。

編入試験は一年から四年一学期までの全科目で、例えば博物の試験では一年の植物、二年の動物、

三年の生理衛生、四年の鉱物、全部勉強しなければならなかった。体操もあったが、音楽はなかった。試験は二日間であった。受験生は百名位で合格者は二名だけ、幸運にも私はその中にいた。一週間後、補欠でもう二人入って来た。その時私は十九才であった。

四年の二学期三学期は無事に済み五年になり、その一学期も楽しく済み、上級学校への進学もぼつぼつ考えようとしている九月一日(大正十二年)、あの関東大地震が起きた。学校は残念ながら影も形もなくなってしまった。焼け残ったよその学校の校舎を午後借りて授業を受けたり、校舎を一部建て二部授業をしたりしているうちに十三年三月が来た。そして中学校卒業証書を買った。

文部省は中等学校教員が不足したので、東京及び大阪の外語その他の学校に教員養成所を付設した(大正十二年)。授業料無し、その上二年で中等教員の免許証が貰える。私は先に書いたように英語の教員が夢の中の希望であったし、工場で働いて貯えた貯金もだんだん少なくなって来たから、これに決めた。東京外語にしようか、大阪外語にしようか、大変迷った。受験雑誌によると、大阪外語の校長中目先生は十カ国語に通じ、大変新しい考えの方であったので、大阪にきめた。中学教育は四年の二、三学期と五年の一学期しかまともな授業を受けていなかったから、心配したが、幸運にも合格した。自分で考えてもビリであったと思う。

大阪外語の教員養成所は面白い学校でクラスの最年長は三十六歳の陸軍大尉、陸軍少尉は四名、海軍兵学校で高松宮殿下と同期であった者、三高や七高の中退者等種々様々であった。私はこれ等の級友に追い付き追い抜くため一所懸命勉強した。

卒業の時、主幹の先生は私を呼んで、「北野中学へ行け。北野中学は東京府立一中、府立四中と日本一を競う中学だ。よく勉強しておかないと生徒から相手にされなくなる」と言われた。

大正十五年四月、北野中学の教壇に立った。外語の主幹先生が言われた通り、生徒の質問はとても厳しい。その厳しい質問に答えるために随分勉強もし、丸善書店へ通った。戦後大学を出ていない私が光華女子大学文学部で英語学の講義を多年続けることができたのは、全く北野の生徒諸子の厳しい質問のお蔭と、今も感謝している(平成七年五月二十四日)。

【付記】六稜昭五会(昭和五年三月卒業生の会)の総会で私の中学生時代を問われ、思わず口が滑っ

た。代表幹事の中橋正衛君から、面白かったから六稜昭五会報第十七号にその話を書いてほしいと頼まれた。それをできるだけ整理したのが本稿である。

※本誌に転載するにあたり、水鳥先生にはさらに校閲をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。(編)

●ひとくちコラム

「殉難」逸話、中学教科書に

東京書籍発行の中学校教科書『歴史』の「戦争体験を聞いてみよう」と題したページに次の一文が収録され、北野の校庭にある「殉難乃碑」の写真が添えられている。



のこされたパンとお米

(1945年)6月14日の朝、登校するのにゲートルを巻きながら「今夜当番をして明日朝帰ったら、お母さんにパンをとってきてあげるよ」と言いますから「それはどうしてなの」と聞きますと、「一晩中夜警をするから、パンの配給になる」と言います。

「またそんなことを言う。一晩中夜警をするので下さるパン。必ず食べねばいかん。それを食べなったら、まさかのときにお役にたたない。必ず食べなさい」と言ったら、笑いながら「もう一つ良いことがある。今日からお米の配給があるのでそれもあげられる」とうれしそうに拳手の礼をして「行ってきます」と出かけました。これが私との最後でした。

死んだとき、私が学校でかれのカバンを見ましたら、パン2個とハンカチにつつんだお米が入っていました。

(大阪国際平和センター「平和への道しるべ」より)

上の資料は、大阪で中学校の夜警をしていて空襲で亡くなった生徒のお母さんが書いた追悼文です。

ここには人名・校名の表記はないが、大阪大空襲で学校防衛中に死亡した池田彰宏さん(当時2年生)のことである。(編)

わが校舎わがグラウンド(2)

まもなく姿を消す校舎、姿を変えるグラウンド……。校舎改築工事が平成10年度からいよいよ始まる。
60年以上…数多くの六稜生がここで学び、汗を流し、友情を育ててきた。その思い出のいくつかを語ってもらった。

鉄棒の思い出

山田文一(60期)

終戦、敗戦——表現はいつでもよかった。昭和20年8月15日、この日から私達の本当の青春が始まった。14歳だった。校舎はかろうじて戦災に遭わずにすんだが、校庭は食糧のための畑のまま、体育館にあった鉄棒も供出されたのだろうか、行方不明のままだった。

昭和21年の秋、第一回国体が大阪で開催されることとなった。器械体操の種目は今のように6種目ではなく、鉄棒、跳箱(今の跳馬のこと)、徒身体操(今の床)の3種目。跳箱と徒手は何とかできる、しかし鉄棒はどうにもならなかった。器械がなければ練習もできない。国体出場も諦めねばならないか、と思っていたとき、思わぬ助っ人が現われた。55期の藤井博氏である。氏は当時在学中の関西大に使っていない鉄棒があるからと言ってくださったので、同期の吉田、61期の仙波などと取りに行った。

一寸拝借のつもりがいつのまにか我が物になって、その鉄棒は多分、体育館が焼けるまで、大勢の若者たちに愛され続けたに違いない。何もない廃墟の中から立ち上がった私達の心の支えでもあった鉄棒、青春の思い出が一杯つまっていた鉄棒。

おかげで、私は第1回国体の器械体操の鉄棒規定で1位となった、あの鉄棒の鬼、小野喬氏をおさえて。

何年か後、逆車輪を回っていて、その鉄棒から飛んでしまい、1カ月は首が回らなかった。その時痛めた頸椎損傷のため、いまもマッサージが欠かせないが、マッサージのたびにあの鉄棒を思い出す。(写真=今はなき旧体育館の屋根の上で)



いつの頃からか補習科があった

大谷昌平(69期)

3年間の高校生活を終えて、大学への合格はおぼつかないと先生に指摘されていても自分では合格するつもりで受験して、やはり落ちたという人は

かなりいた。受験に失敗した同級生は、東京や京都や地元大阪の予備校へと散らばっていったが、当時は予備校の数も少なく、もう一つの道として北野の中に補習科というのがあった。

現役生の時間割で体育などで空になる教室を転々としながら、その時間に手の空いた先生が普段の授業と変わりなく教えてくださるシステムで、1クラスか2クラスあったように思う。このクラスでは現役時代の3年間には、一度も一緒にいなかった人が1つのクラスにまとまったこともあって、また受験という同じ目標に向かっていて、一方現役時代の校則にしばられない自由さを満喫できたことなどによって、不思議な連帯感ができて楽しい一年間を過ごした。

体育の時間はなかったが、こづかいを出し合っソフボールとバットを買い、ソフボールをやったり、大手前高校出身の浪人と対抗試合をしたり、現役学生がやっていたようなことは何でもやっていた。当時の受験生活には偏差値という言葉もなく、北野の模擬試験で何番というのが志望校決定の目安になっていたため、模擬試験の時は予備校に通っていた人も受験しに来ていたように思う。

大学を卒業し、社会人になっても、この時の連帯感はいまでも残っており、人生における大きな支えになっていることは確かである。

化学研究部の青春

梶本興亜(73期)

「化学研究部」に青春の思い出を重ねる人は多い。化学という学問の持つダイナミックな性格に憧れを感じて入部した人たちもまた、ダイナミックであった。

化学研究部は昭和24年に、それまでの理科研究会から独立して誕生したと伝えられる。その時に、地学部、物研等もできたらしい。昭和40年頃までに『試験管』という機関誌が2度ほど発刊されたが、ともに数巻の継続で終わっているようである。私は昭和33年から36年まで化研に所属したが、その間に2度目の『試験管創刊号』を部員たちで発刊した。創刊号には京都大学工学部長であった曾我直弘



教授(28年卒、当時は助手であった)の特別寄稿があり、諸先輩方からの励ましの言葉がある。ここでは、そのダイナミックさの一端をまず稲森芳博氏(29年卒)と小池浩氏(30年卒)の文章をお借りして紹介しよう。

—— 化研部の機関誌を発行される由、ご苦労さんです。そもそも化研とは、北野高等学校化学研究部の略で今までに世にも珍しき逸材を世に出しております。山本さん、小島豊さん(27年卒)をはじめとして、吉川竹四郎さん(昭和30年卒、Osaka Contract Bridge Clubの創始者)、山形圭三さん(31年)、壇須寿雄さん(32年)、菅正徳(32年卒、名応援団長)、藤原俊一(33年卒、自称爆弾男。化研特製爆弾で全治20日間の傷を負った)等。

化研出身者は全く一癖もふた癖もある強者ですが、これらの人達は化研に入る前は「まとも」だったのです。有毒なガスの充満する部屋での3年間、ある時は化研特製の合成酒「化研正宗」の粟井先生、西田先生、北原先生などへの人体に及ぼす反応試験。また、ある時は火薬を作り日頃のうっぴんを晴らしたものです。これでは、まともな人間も変わるのとは当然です。

化研特製の煙幕を放り込み校長を煙に巻くような化研部員が出てほしいものです。……こういうことはあまり実行するなよ。 —— (稲森氏)

—— 私たちが化研部員だった頃は最もたちの悪いのばかりが寄っていたように思われる。先輩たちに比して最も活躍したようでもあるが、いたずらをやったことも甚だしく、金森先生等随分我々の存在が迷惑になったことと思う。

同窓会で北野に参ったとき、拝見すると今日は部室がないようですが、我々の頃は化学教室の約3分の1が我々の部屋に当てられていた。そこに質の悪いのがたむろして雑学研究会を構成していたのである。

雑学中忘れもしないのはイタズラ学。その内容は、サツマノカミ(枕詞)タダノリ学、キセル学、食器蒐集学(食堂の食器が部室に10余個あった)、清酒合成学(エタノール希釈学)。……大学に入ってからこの単位は取らなかった。

イタズラもよくやったがホンマに勉強もよくした。数学、物理学、化学、英語などの難問は絶えず我々の間に発生し、我々の文殊の知恵で解かれた。そういった事が我々高校生の最大関心事である大学入試に期せずとも糧となったらしい。

一方、化学研究会としての活躍は、今から考えると随分非理論的であったが、我々が3年の時は、種々のメッキ、銅メッキによる絵画的描写、ポリエステル樹脂の重合、加工、尿素樹脂ベークライト樹脂の重合など随分多岐に渡っていた。従って予算においても、野球部が運動部の横綱である如く化研が最も大きかった。 —— (小池氏)

こういった先輩方の活躍の結果として、我々の時代には「化研の部室」が無くなっていたのではないかと上記の文章を読みながらハタと気付いた。

さて、このような時代を経て、昭和30年代の高度成長期には化学は技術発展の先導役であった。これを反映して化学の人気は高く、部員の数も増加し、35年度生は16名、36年度生は13名を数えた。荒々しい伝統の化研部にも女性部員が増加したが、イタズラ学は絶えることなく、文化祭の前夜には合成酒が準備され、教員宿直室の前で爆発が起った。もちろんマトモな研究の方にも力が入り、34年度には「金属イオン全定性分析」、35年度には「淀川への海水の遡上の研究」(水中の塩素イオン濃度の経時変化の測定)、さらに36年度には当時の公害調査の先駆けである「淀川の水質検査」も手がけられた。一方で、化研からのキャンプやハイキングもあり、淡い青春のときめきの場面もあった。化学研究部は受験勉強が大きなウエイトを占める高校後半の生活の中で「オアシス」であり「もう一つの教室」であったという事が出来る。

地学研究部

壽榮松正信(74期)

地学研究部を語る上で、正面屋上に鎮座していた大望遠鏡をはずすわけにはいかない。口径30cm、京都西村製作所で作られたもので、当時も今でも日本の高校では最高レベルのものであった。戦後まもなく先輩有志の寄贈で、昭和27年8月20日に



搬入組み立てられた。集光力は肉眼の2500倍もある。昭和も終わる頃、鏡筒部だけでも活かそ

うと望遠鏡再建を願って解体されたという。現在は台座のみ元の場所に（写真）、本体は屋上の旧部室で静かに眠っている。北野のシンボル「北中」の透彫りの真下である。

子供、特に男の子は手に入らないものに夢を持つものである。この望遠鏡が健在だった頃の子供は、月にウサギが居るとは思わなかっただろうが、火星の生物の存在には興味があったものだ。20年前のヴァイキング1号・2号、先日のマーズパスファインダーでその夢も壊されてしまったが。

望遠鏡については、石川勇さんを忘れるわけにはいかない。71期の石川さんは在学中47cmの主鏡（凹面鏡）から手作りで作り上げ、当時府内でかなり話題になった。昨今の既製品万能の時代では考えられない努力が必要で、2枚のガラスを何十万回も摺り合わせなければならぬ。この望遠鏡は今も能勢の野外活動センターで、夢多き子供たちに貴重な経験の場を提供している。

屋上の望遠鏡が健在であった頃、地学部員が中心になって観測会を催した。月食や日食、教科書でしか見られなかった月のクレーターや土星の輪など、空気の状態によって起こる揺れも含めて、ゆらゆらと動いて見えることの感動を今も持ち続けている方も多いことだろう。地上の風物を見て（天体望遠鏡は上下逆さに見える）「スカートはどうなるのかな」という不屈きな人もいたが。

いま、石川さんを中心に望遠鏡の再建の話も持ち上がっている。十三のような明るいところでは、星雲などの暗いものは見えないだろうが、太陽、月、惑星、それに近頃よく話題になる彗星などは観測の対象に充分なりうる。そのうえ、現在の技術ではCCDカメラなどを用いて、多人数の子供たちに見せることも可能である。このような都会の真ん中で、手軽に観測できる絶好の場所に設置する意味は大きいと思う。校舎改築の折り、ぜひ

とも屋上にドーム付きの望遠鏡をと頑張っておられる。

美術部のこと

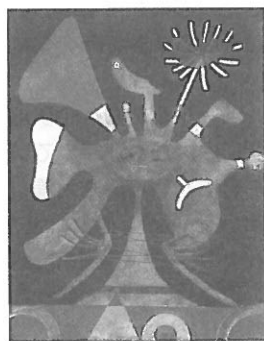
岡村隆久(77期)

私が北野の美術部で指導を受けたのは岡島吉郎先生だった。私が卒業して2、3年で退職されたが、ほぼ40年間北野一本でやってこられた名物先生である。

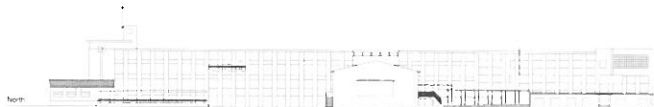
私のいた頃は岡島先生の教職生活最晩年で、こわいというより穏やかな印象が強かったが、先輩達には、こわいこわい先生だったとよく聞かされた。北野出身の若い先生が顔をしかめて岡島先生のことをぼやいておられたのが思い出される。その若い先生も今や好々爺である。

美術準備室を二分して奥の窓のある方が先生の部屋、廊下側が部室だった。部室でのあほなおしゃべりを先生は皆聞いておられたはずだが、そのことを口に出されたことは一度もなかった。

先輩に吉原治良(36期)という画家がおられる。吉原製油の社長でもあった。当時、大阪では具体美術の運動が盛んだった。その中心が吉原治良で、北野では同時代の佐伯祐三の名声に隠れて知名度は低いが、現代美術の世界では今も語られる人である。その吉原さんの描いたあやとりをする少女の絵が、当時は美術教室に掛けてあった。思い出の中では大きな絵だが、実はそう大きくもないことを、120周年記念「六稜会展」で再会して知った。（写真=吉原治良「あやとり」）



具体美術の運動は、後年「グタイ」として先駆的活動が国際的にも高い関心を呼ぶようになった。美術の世界のそれまでの常識が崩れていった。美術混沌時代の始まり。そんな時代、我々も絵の具の代わりに紙や木を貼りつけたり、少し焦げめをつけてみたり…。流れに取り残されまいと、混沌と戦っていたのかもしれない。



毎年夏休み、我々美術部員は志摩半島の波切という村に連れて行ってもらった。日照りの中、坂や階段の多い漁村を上へ下へと汗だくになって歩いてたくさんの絵を描いた。今、その頃の絵が出てくれば感動ものなんだが…。民宿のようなところに泊まり、自由に散策し、灯台を見て、太平洋を見て、魚を食って、何から何まで新鮮で感動的だった。日頃の油くさい美術教室や部室からの解放感も加わって、素晴らしい思い出となっている。

当時軟弱イメージの美術部に、五人の同学年男性がいた。上や下の学年は、ほとんどが女性で、そんな仲間達とは今でも会えば楽しい。

懐かしさと寂しさと羨ましさと

加藤 寿(104期)

北野生の一人として、私もPと呼んで親しんだ本館校舎(写真)が解体されるということには、そこ



で実際に生活した年月に比してあまりに深い郷愁を覚える。しかし、自分の体験

からいえば、本当に一刻も早く、一人でも多くの後輩たちにより環境で北野での生活を送ってもらうことを望むならば、その郷愁は自分の胸の中だけで生きていけばよいと考えるようになった。

私は大掃除の度の油引きやら、崩れ落ちる天井やら廊下の軋みやらをむしろ風格ある高校生活の一エピソードとして好意的に受け止めているのだが、同級生の安本健太郎君などは大雨の後の3階の教室での授業のとき、天井から落ちてくる赤錆びまじりの水滴にカッターシャツを真っ赤に染めたこともあるのだから洒落にもならない。

私たち104期生は元号が変わった年に北野の門をくぐった。講堂で行われた新入生オリエンテーションで、数学科の博本先生が「完璧主義者は北野ではうまくいかない。北野ですべてを完璧にしようと思うのは無理な話だ。だから何か一点でいいから、自分が人に負けないものを持ちなさい」と

というようなことをおっしゃった。私はそれを宿題考査で思い知らされることになるのだが、それでもきちんと新聞部という存在理由を見い出せたのだから、心の寛い学校だったのだろう(いまましいとしか思えなかった先生もいらしたかもしれないが、私の鈍感さと相まって、それを感じさせないだけの配慮があった)。

私は1年のときには第二新館がホームルーム教室であった。この第二新館についてはこれからも残るそうなのであまり悪口はいいたくないが、通常教室の採光というのは黒板に向かったときに左側から入るようになっていたのに、第二新館はなぜか光が右側から入るようになっていた(黒板を2面使うのはいつものことだったのでそう違和感はないが)。しかも季節を問わず、廊下側の土地が湿っていたために蚊が多く、教室が3つしかなかったこともあって、Pにある風格も、棟続きのプレハブ教室にあるクーラーも、第二新館にはないと特に夏は羨ましく思えた。

しかし、2年になって「風格」の代償があまりに大きかったことを知らされた。長い廊下は日光が直接教室に当たるのを防いでくれるのだが、私のいた213教室と隣の214教室はグランドから丸見え、つまり日光が直接入るような構造になっていた。しかも、担任が松江生まれで冬でも暑がる国語科の野尻先生であったため、野尻先生の授業の度に暑苦しさをかきたてられた(その割には214に付いたブラインドが、213には付かなかったのはなぜだろうか?)。

北野を卒業する直前(といっても卒業式は終わっていた)に、六稜新聞部主催で近畿圏の高校新聞部を中心とした交流会を開いた。もうすぐ校舎がなくなるという噂が広まりつつあったところで、一人でも多くの同世代の人間に北野の校舎を見せておきたいという意識が働いたのだろうと思うが、この交流会の参加者の感想をみると、分科会の内容などよりも「校舎が立派で羨ましかった」「教壇の高さに驚いた」などという感想が目だっていたし、感想文にでないまでも、校舎・教室の造りの重厚さが好評であった。

建物の風格は、それそのものの風格でもあるが、中で生活する人間の生きざまの重厚さにも関関が

あるのではないかと思う。その意味で、荘厳さは北野生の切磋琢磨の象徴であり、結果であったのだろう。そう考えると、新しい校舎においても、その荘厳さに重みを増すのは、そこで生活する次代の北野生の努力にかかっている。人に羨ましがられる素晴らしい校舎の完成が待ち遠しい。

反響「六稜会館物語」

前号の特集、同窓会館建設にむけての同名の記事について、会員の方々より新たな証言や資料を届けて頂いた。感謝して一部掲載させていただく。

【六稜会館1階の射撃部銃器庫】

54期の射撃部員の方より

私は昭和11年に北中に入学し3年になるやうに射撃部に入部しました。入部資格は3年生からで3、4、5年と射撃部に在籍していました。昭和13年以前は関知しませんが13～15年度は射撃部が会館1階を使用していたことは確かです。入った左側に小部屋（物置様のもの）があつて射撃部備品の99式銃がおさめてありました。但し2階が何であったのかはどうしても思い出せません。

〔射撃部の標札が掲げられた六稜会館前での昭和13、14年度末の部員写真をお示し頂いた。部長は配属将校。〕

【昭和14年度の図書委員として】

滝井尚三さん(56期)より

昭和14年、2年生になりましたとき、担任の先生から図書委員になる者はいないかというお話がありまして、私が手を挙げました。書棚の蔵書から読みたいものを自分で選べるのが魅力でした。委員と名がつけばいくらかカッコイイという気もあったように思います。

放課後週1回、会報に書いてある「オリ」のなかに、多分5時頃まで2人で入っていました。利用者は多くはなく、1日10人位、貸し出しは数件ではなかったかと思えます。

どういふ本があつたかということは覚えていませんが、新しいものの補充は少なく、古いものが多かったようです。私は専ら大衆文学の類を読んでいた。当時としては柔らかないものも若干

ありまして、それを借りて帰ろうとしましたら、上級生にこの棚のここからここまでは貸し出し禁止だと言われたことを覚えております。

一年間委員を務めましたが、それほど魅力がなかった（私の能力と意欲の問題ですが）、翌年は辞退しました。

【「六稜会館図書館」についての追加情報】

生島幹三さん(60期)より

前号の特集「六稜会館物語」を興味深く拝読しました。曾て「六稜会館」にあつた図書館について同期の大岩、柿木両君が閲覧室の側からの的確な情報をお寄せ下さった由ですので、金網で仕切られた反対側の書庫にいた小生として、簡単に追加情報を提供しておきます。

五つの学年の各学年から六、七名宛の図書部員（ただし、戦中の当時は校友会図書部でなく、報国団図書班と言っていました）がいて、週日の昼休と放課後、（それぞれ自分に割り当てられた当番の折に、）図書館の戸の開閉を始め、図書の出納、貸出等の事務を、金網の向うの書庫の方から、窓口を通して行なうなど、図書館の運営をしていました。私の頃の班長は英語の加藤豊先生で、各学年の担任の中から一人、係の先生がおられたようです。我々は、学年の係の原先生に、昭和17年4月に入学後間もなくスカウトされて部員になりましたが、2年生からなつた学年もあるようです。

本好きの私は、当番の時はゆっくりできないので、非番の時にも、まるで部室のように来て、書庫で本をとり出して読んだものでした。3年生の19年秋から学徒通年勤労働員に出動し、借出していた愛読書を宿泊先へ携行したりもしました。動員で留守中（その間、20年春に自動的に4年生になっていましたが）六稜会館の内部が6月の空襲で全焼したことは、8月15日が過ぎて戦後学校へもどったとき初めて知りました。部も、いわば自動的に消滅しました。

ただ一言付け加えますと、21年度になって同期生（当時5年生）の寓喜敏一君が、少数の同期生や一年二年後輩の人達と、古本を集めて、いわばサークル活動的な図書部を始めていました。その活動の詳細や、それが後の林校長時代の部とつなが



ってゆくのかどうかなどは、よく知りません。

なお「六稜会館がいつから図書館に利用されたか」については、現北野高校図書館の御好意で、先日、館蔵の北野中学校校友会誌「六稜」第90号（昭和15年3月発行）を閲覧する機会を与えていただき、その部報欄に、当時4年生（54期）の図書部員、水田喜博氏が書かれた文章を参照させていただきました。すると「最近図書室も現在の補習科B組教室より六稜会館の2階に移転し、種々の修築を施して従来の陰鬱なる雰囲気を一掃し、明朗なる読書室を形造っている。」とあります。この「最近」を、もう少し特定したいのですが、筆者に今うかがっても、御記憶にない由でした。この昭和14年度か、その前あたりと考えてよさそうですが、少なくとも53期の中江さんは、14年に5年生で新しい快適な図書室を愛用されたとみえます。

又、水田氏の文には、「図書部創設以来五十有余年」という言葉が出てきますが、図書部と結びついて「学生図書館」が、中学校として開学以来（校舎や、校内の設置場所の移転はあったとしても）存在し続けたと考えてよさそうです。事実、私が入部した当時も、書庫の脇の小部屋の隅に廃棄処分された昔の蔵書が積み上げられてあり、それらには、「北野」以前の、明治の古い校名の印が捺されてあったのを記憶しています。

今回この文に添えて、私の手元に保存してきた（私の1年生の）昭和17年度末、および（私の2年生の）昭和18年度末の部員全員での記念写真を、史料としてこの際同窓会に寄付することにしました。（その氏名の確認その他に関して、59期の清水利孝先輩や、又、昨年度総会の懇親会に出席された56期、57期の諸先輩から給わった御教示に厚く御礼申し上げます。）「部室」のようにといっても、閲覧室の側の書庫のことで、しゃべったりすることはできないわけですが、写真に写る個々の先輩に関しては、自ら思い出があります。毎年学年末には、書庫の中央の長机を囲んで卒業部員の送別の集まりがありました。卒業部員代表の挨拶にはいつも、「天下の北野などといっているが、その図書館の蔵書たるや、まことに貧弱で、碌なものはない。」という苦情ののべられたものです。それに対して部長の加藤先生が、懸命に抗弁されたさま

を思い出します。恐らく戦後の北野高校の新しい図書館の充実ぶりを見れば、さぞや昔の先輩たちは羨望することでありましょう。

《北野高校図書館よりお願い》

図書館では創立百周年記念として「六稜文庫」を設け、同窓会員諸氏の著作については寄贈を仰ぐほか、図書館としても予算の許す限り購入に努めてきました。しかし近年の大阪府の財政悪化に伴い学校全体の予算が削減され、図書購入費も大幅に圧迫されて「六稜文庫」を継続的に充実させていくのが非常に困難となっている現状です。

諸先輩のご著書や、卒業生関連の著作を北野高校図書館あてにご寄贈いただければ大変ありがたい、よろしくお願いいたします。

伝言板

★本誌30号でお知らせした『田上泰昭著作集』が96年12月に刊行された。「田上泰昭先生著作集刊行会」には大勢の田上先生の受業生や元同僚の先生方、研究仲間からの出資申し込みがあった。刊行会の残金のご遺族のご了解を得て、同窓会のために有効に使うため、当面は刊行会で預かることになった。使途については本誌にて報告することとする。なお、『田上泰昭著作集』（B5判394頁、上製本、箱入り）を購入希望の方は次の郵便振替口座に6,000円（送料込）を振り込むこと。残部には限りがあるのでお早めに。

問い合わせは六稜同窓会事務局まで。

郵便振替 00990-0-72249

口座名 田上泰昭先生著作集刊行会

★陶芸家の和太守卑良【わだ・もりひろ】さん（74期）の作品展（日本経済新聞社主催）が来年全国3ヶ所で開催される。「できるだけ多くの方に見ていただきたいので、ご希望の方には入場券をお送りします」と和太さん（電話0296-72-5413）。日程は次の通り。

茨城県つくば美術館	1月10日～2月8日
高島屋東京店	3月26日～3月31日
高島屋大阪店	5月7日～5月12日

●平成8年度

会務報告＋会計報告

○平成8年度総会 10月27日(日)北野高校講堂および食堂にて 出席者314名

- 1.稲畑勝雄会長(56期)挨拶、会務報告
- 2.卓話『ニュースを伝えるということ』
NHKアナウンサー 有働由美子(99期)
- 3.懇親パーティー(幹事期77期)

○常任理事会(平成9年1月25日)

- 1.校舎改築について
- 2.平成8年度総会報告
- 3.平成9年度年次予定について
- 4.同窓会館について
- 5.年会費について
- 6.国際交流事業報告
- 7.その他
 - ①卒業式・入学式の同窓会からの参列者について
 - ②ホームページ開設準備委員会の発足
 - ③笹部桜を含む改築に際しての植栽について

○常任理事会(5月24日)

- 1.平成8年度決算報告案、平成9年度予算案審議
- 2.理事会に向けて議案の検討

○理事会(5月24日)

- 1.平成8年度決算報告、平成9年度予算案提出
- 2.同窓会館建設について
- 3.インターネットホームページ開設について
- 4.国際交流報告
- 5.平成9年度総会について

○臨時常任理事会(7月8日)

- 1.事務局人事について

■北野高校国際交流基金への寄付のお願い

この基金は120周年募金の成果の内から1,000万円をもって設立されたが、昨今の低金利下、利息だけでは運営できないので、六稜同窓会基金の果実からも援助している。基金の額を増やすことが今後の課題である。会員のご協力をお願いしたい。寄付のお申し出は事務局まで。

[寄付] 1997.7.31現在。受付け順、敬称略。

有働由美子(99期)	5万円
84期同期会	5万円
柔道OB会	10万円
六稜期別対抗ゴルフ大会	10万円

ご厚志ありがとうございました。

平成8年度 六稜同窓会 一般会計決算報告

科目	平成8年度予算	平成8年度決算	備考
●収入の部			
1 前年度繰越金	2,387,977	2,387,977	
2 入会金収入	1,200,000	1,311,000	437人×3,000円
3 年会費収入	14,300,000	16,629,000	5,543人×3,000円 前年比122%
4 臨時会費収入	800,000	1,110,000	262人×5,000円 前年比171%
5 寄付金収入	0	0	
6 利息収入	5,000	7,318	
7 記念誌専売上収入	600,000	652,750	記念誌 CD売上収入 549,000 名簿売上収入 54,000 タックシール売上収入 34,750 印刷代 (78期) 5,000 テープ代 10,000
収入合計	19,292,977	22,298,045	

●支出の部			
[1] 運営費	9,840,000	10,361,119	
1 人件費	2,400,000	2,400,000	
2 雑給	700,000	603,200	
3 旅費 交通費	400,000	407,340	
4 通信費	300,000	318,300	
5 印刷 事務用品費	2,300,000	2,331,157	
6 会議費	400,000	693,560	
7 総会費	2,000,000	2,156,435	
8 慶弔費	900,000	890,250	
9 雑費	400,000	524,337	
10 兄弟費	40,000	36,540	
[2] 会報発行費	5,390,000	4,251,275	
1 編集費	90,000	90,000	
2 印刷費	2,800,000	2,493,306	
3 会報発送費	2,500,000	1,667,969	
[3] 全国大会出場援助費	250,000	150,000	
[4] 各種事業援助金	300,000	358,300	
[5] 予備費	3,512,977	0	
支出合計	19,292,977	15,120,694	

次年度繰越金	0	7,177,351
--------	---	-----------

以上の通り 平成8年度一般会計報告を致します。
平成9年5月14日 六稜同窓会会長 稲畑勝雄
本会計の正確であることを認めます。
平成9年5月14日 六稜同窓会監事 滝井尚三
六稜同窓会監事 栢田圭兒

平成8年度 六稜同窓会 基金会計

科目	決算	摘要
●収入の部		
1 前年度繰越金	98,256,765	大和基金返託 郵便定期貯金 農林中金定期 貸付スーパードル。ほか
2 利息収入	738,843	
収入合計	98,995,608	

●支出の部		
	0	
支出合計	0	

次年度繰越金	98,995,608
--------	------------

以上の通り 平成8年度六稜同窓会基金会計報告を致します。
平成9年5月14日 六稜同窓会会長 稲畑勝雄
本会計の正確であることを認めます。
平成9年5月14日 六稜同窓会監事 滝井尚三
六稜同窓会監事 栢田圭兒

★村田義人先生（元校長）は本校を定年でご退職の後、天理大学、金蘭短大などで教鞭を執られ、現在は各地の文化センターで哲学やカウンセリングの御講義にお忙しい日々をお過ごしだが、この春、エッセイ集『散歩道』と、奈良新聞に平成6年4月から2年間にわたって連載されたコラムをまとめた『漢詩動物誌』を出版された。

ご退職の1985年に出された『軌跡 — 高校生と歩んだ三十五年 —』（474頁）、戦時中の中国でのご体験を主に書かれた『月湧いて大江流る』（88年）にもエッセイが収められているが、『散歩道』の各篇にも先生の伸びやかな精神、やわらかで自由なものの見方、温かなお人柄があふれている。『漢詩動物誌』は身近な動物を通して漢詩にも親しめる楽しい読み物である。図書館にすべてご寄贈いただいている。

★前号の表紙でもご紹介した笹部桜についての話題を。故笹部新太郎さん(17期)の遺業を継いで桜の育成に尽力されていた久野友博さん(54期、故人)宅の笹部桜の若木を2本、久野夫人により六稜同窓会にご寄贈いただいた。若木は接ぎ木と実生の、どちらも5、6年もの。校舎と同窓会館の完成まで、宝塚の園芸農園に預けている。この春も花を咲かせて元気に育っている。

また、北野の南庭にある笹部桜のひこばえを切り、接ぎ木して育てているものが20本ばかりある(宝塚と伊丹の農園に預けてある)。まだ2年目であるが、数年後の花が楽しみである。北野にある親木とともに、これらの若木が新しい北野の校舎に文字通り花を添えてくれるよう願っている。なお、これらの事業は63期の戸澤正雄さんのご協力を得て78期同期会が世話役をつとめている。

★北村芳郎さん(51期)は「南蛮文化館」の館長。阪急中津駅から徒歩3分の自宅の一角に個人美術館を建てて30年になる。重要文化財の「南蛮人渡来図屏風」(写真、下)をはじめ、民間では日本一のキリシタン・南蛮文化コレクションで知られる。なお、開館は年に2回（5月と11月）。月曜休館。



★松村博さん(74期)は大阪市の橋梁工学の専門家として知られているが、本年5月に心斎橋筋商店街振興組合が主催して大丸そごうで同時開催された「心斎橋筋の文化史展」において、江戸時代に架けられた木造の初代「心斎橋」の模型(写真、上)製作に当たられた。展覧会開催にあわせて商都大阪を代表する賑わいを見せた心斎橋筋の歴史と文化をまとめた記念誌『心斎橋筋の文化史』も編まれ、松村さんの論文も掲載されている。

★藤原良雄さん(79期、藤原書店店主)が本年3月11日フランス文化省にて芸術文化勲章(シュバリエ章)を贈られた。ドストブラジ仏文化大臣により読み上げられた受賞理由は「…フランスの思潮の啓蒙・普及にあなたが手がけられる仕事の膨大さを思いやるにつけ、ただただ頭の垂れるばかりです。この“知の冒険”ともいえる偉業に慶祝の意を表します。」

★高木和弘さん(102期)は新進ヴァイオリニストとして活躍中(写真、右)。1985年に全日本学生音楽コンクール西日本大会中学校の部で1位。89年、第1回宝塚ベガ音楽コンクールヴァイオリン部門3位。北野高校文化活動振興賞受賞。北野卒業後、フランス国立リヨン高等音楽院に。94年同校ヴァイオリン部門首席卒業。97年1月には東京と京都でリサイタルを行なった。このたび97年度エリザベート王妃国際コンクールで6位に入賞された。今後の益々の活躍が期待される。なお12月に東京と大阪でリサイタルが開かれる。



PARTY REPORTS

1996.8→1997.7

※同窓生の各種集いの報告を、この欄にお寄せください。

六稜同窓会123周年総会

1996年10月27日(日)北野高校講堂に300名を超える会員を迎え、稲畑勝雄会長(56期)の挨拶で始まった。山本次郎副会長(62期)が会務報告を行ない、特に同窓会館建設への思いを強く語った。

続いてNHKアナウンサーの有働由美子さん(99期、写真)が「ニュースを伝えるということ」と題する卓話を行なった。ジャーナリストになりたかった少女時代のことやNHKに入ってから数々の経験を語りユーモアあふれるエピソードや失敗談に会場は笑いの声が絶えなかった。そして「ニュースを読むとき、ただ文字を追うだけの読み方では伝わらない。ニュースの背後にあるものを一つ一つ理解した上で読まなければならない。そう心掛けている」と結んだ。ほとんどの出席者より若い有働さんであったが、さすがNHKの花形アナだけあって堂々とした話しぶり、巧みな話術に引き込まれたひとときだった。



その後、食堂において懇親パーティーが行なわれ、今年の幹事期の77期が進行やアトラクションを担当。これまでとは違った華やいた雰囲気のうちを終了した。

また、これに先がけ、77期の発案と運営により10月6日に実施された「校舎を撮影・写生する会」には100名以上が参加。当日の作品の一部が総会当日に会議室で展示された。

東京六稜会40回総会

例年6月第1週木曜日に開催の東京六稜会総会は、本年も6月5日(木)午後6時より、東京丸の内の日本工業倶楽部にて盛大に開催された(出席者138名)。

総会はまず河崎晃夫会長の挨拶で始まった。河崎会長より会長を辞任し後任として大山利雄氏(56期)を推挙するとの申し出があり、総会で了承された。常任幹事より会計報告の後、秋田典昭校長より北野高校の現況、即ち校舎改築スケジュール・部活動・大学入学者・国際交流等について報告があった。続いて山崎浩和前校長が校舎改築に至るまでの経緯説明と退任の挨拶、六稜同窓会の菅正徳常任理事

(69期)が同窓会館建設および六稜同窓会のホームページ開設についての説明を行なった。

当番期より講演者を選ぶという前例にならって、本年は78期の西本豊広氏(国立歴史民俗博物館助教授)が「イヌとネコと日本人」と題し、縄文時代から現代までどのようにつきあってきたかを動物考古学の立場から講演した。

講演終了後、3階パーティー会場に移り、中馬弘毅氏(67期)の乾杯の音頭でパーティーが始まった。懇談、78期によるアトラクション(景品の抽選…なお抽選は秋田校長にお願いした)の後、新会員(3名)の挨拶、次期総会の当番期の79期の挨拶があった。校歌斉唱は例年の元応援団員のリードとは異なり、新会員の岡田早代子さん(109期、東京芸大・声楽)のリードで、当番期78期生も全員が前に出て歌った。岡田さんの美声の際だった校歌斉唱であった。最後に丸山裕子78期東京同期会会長より閉会の挨拶があり、8時40分、盛会の内に終わった。

【追記】総会の準備、司会をされた常任幹事の岩木俊(63期)、名簿の準備、会計をされた黒岩(75期)・清水(75期)・藤田(90期)の各氏、また景品を提供して下さった同期生、並びに諸先輩に厚く御礼申し上げます。(東京六稜会78期幹事、坂本徹夫記)

岡山六稜会

六稜同窓会の岡山版がほしいとの気運は、戦後の混乱が治まりかけた頃から興り、その後随時小範囲の集会を持った。昭和59年、西岡憲康氏(72期)山本(長谷川)孝子氏(72期)等の努力により「岡山六稜会」を正式に発足させた。本会は、なかなか総会へは出席できない岡山在住者の心の支えとなっている。現在、会員は最高齢の野平上氏(32期)を始め、50名である。毎年8月の最終土曜日を総会の開催日と定め、「六稜の星のしるしを」と懐古するとともに、明日へのエネルギーを醸成すべく約30名が参集する。三世代も離れた年齢の枠を越えて、気軽に談話できる雰囲気を醸し出しており、最近隣県からも参加者がある。岡山県あるいは近県に転居された方は、是非ご連絡ください。

連絡先：近藤正次(58期)

〒703 岡山市海吉1835-7 Tel.086-277-9191

大阪城梅林で六稜観梅会

恒例の観梅会が今年も2月最終土曜日22日に開催された。雪のふる中、大阪城梅林公園の六稜同窓会の碑の前に集まり、新装なった大阪城天守閣を背景に写真撮影、校歌斉唱。その後、レストハウス「集」2階でなべを囲んだ。寒い日だったため、この宴会から参加した人もあり、40期から79期まで約40人が楽しいひとときを過ごした。特に40期代の先輩たちの壮健ぶりに驚かされた。常連の水鳥先生、

梅原先生がお見えにならなかったのが寂しかった。(梅原先生の訃報が後日届いた。ご冥福を心よりお祈りいたします)。(事務局記)

北野中学校記念碑の集い

例年通り4月20日午前11時、中津の済生会病院前庭の北野中学記念碑前に13名が集まった。記念写真撮影後、近くのホテルサンルートのレストランにて昼食、歓談。中津校舎の思い出話を、その最後の学年だった三砂栄次さん(48期)たちにうかがった。(事務局記)

バレ一部創部50周年記念式典

平成8年8月10日、バレ一部創部50周年記念式典がOB、OG、現役合わせて260余名、歴代顧問の中島、稲葉、河原、岡田(塚田)、野々村(羽根)、山根(石橋)、松浦(山田)の先生方と現在顧問の正者、乾両先生、及び天王寺高校桃陰会矢野会長ほか4名の招待者と共に、千里阪急ホテル仙寿の間で盛大に開催された。

午後1時、椎木(齊藤)尚子(93期)の司会により代表幹事辻孝生(84期)の開会宣言に始まり、校歌斉唱、会長加賀完一(57期)の挨拶があり、幹事長芝田禮三(60期)による活動報告と招待者紹介の後、故平石先生はじめ物故球友4名に黙祷。副会長藤沢(萩野)善子(63期)の発声で乾杯し、にぎやかに歓談となった。31年の長きにわたり顧問を務められた松浦先生に感謝状の贈呈があり、部員同士結婚カップルの登場などに盛り上がり、現役男女主将の力強い声明に熱い声援を送った。60期メンバーによる応援歌「澁江春の花の色」(写真)、万歳三唱、幹事宮まり



(92期)の閉会宣言「10年後にまた」の言葉で幕を下ろした。なお、今回の創部50周年を記念し、先生や球友たち約50名からの寄稿や、貴重な写真や記録などを満載した北野中学校・高等学校バレ一部50年史『六稜』を作製し、出席者ならびに全会員に配布。さらに日本バレーボール協会、学校図書館、関係各位にも寄贈した。(芝田禮三記)

六稜水友会(水泳部OB会)

六稜水友会では、去る8月10日に母校にて恒例の第18回六稜水友会総会・第15回水泳大会を開催した。多数のOBの参加の下、OB間そしてOBと現役の間の世代を越えた交流がなされ、大変な盛会だった。来年も同時期に開催する予定なので、多数

のOB諸氏の参加をお待ちしている。また、本年度も会誌「稜水」の発行、現役との交流、新入会員の歓迎パーティー、インターネットメーリングリスト開設など、六稜水友会は積極的に活動しているので、会員の皆さんには年会費の納入をよろしく願います。連絡先：事務局 田中健太郎(107期)

Tel.010-11-96132

E-mail 9621615j@ipc.kobe-u.ac.jp

金鹿さき酒会

六稜関係で造り酒屋というのは数少ないと思われる。73期の植田伊織君はその数少ない造り酒屋の一人。金鹿という銘柄の酒を造っている。蔵出しの時期を迎えた頃、彼に絞り立てのおいしい酒を飲ませてくれないかとお願いしたところ、ふたつ返事でOKをいただいた。どうせなら六稜の皆さんに声をかけて賑やかにやろうではないかということになり、あちこち声をかけて何期にもまたがる50人以上が集まり、3月8日に「さき酒会」を開催した。酒ができるまでの話と見学の後、おでんなどを食べながら、蔵出しのおいしいお酒を思う存分飲み、さき酒コンテストの全問正解者に賞品が渡されて盛り上がった。ぜひ、恒例にしたいと思っている。

世話役：石田雅明(73期)

六稜四五会「入学70周年」平成9年度総会

6月11日、大野屋迎賓閣に水鳥喜平先生を迎えて17名が出席。北野中学校の校門を仰ぎながら入学して70年、共に過ごした日々を回顧しつつ入学時の初心に返って胸襟を開き、最後に校歌を料亭の隅々まで響かせて散会した。なお、水鳥先生は今年94歳になられたので山登りは止めると決心された由。わが坊主先生かくの如くご健在なり。

(幹事 那須専一・野添正二)

六稜60期四国八十八ヶ所巡拝団

我々は昭和17年に戦闘帽に巻ゲートルというスタイルで入学し、勉学もそこそこ軍役奉仕や工場生産に動員され、4年生の折りに終戦を迎えるというあわただしい時を過ごした。卒業して早50年、すでに冥府におられる恩師、元気者だったのに早々に逝ってしまった朋友のことなどが思い出され話題となるこの頃である。

毎月集まっているうちに、四国八十八ヶ寺をすべて徒歩で巡拝しようとの提案が出て、検討した結果、



1週間ほど歩き、一旦帰阪して又歩き始めるという計画を立て、1年間足慣らしのためのハイキングをするなどの準備期間を経て、今年4月8日の花祭りの佳き日を期して旅立った。

今、発心場（阿波国23ヶ寺）の巡礼を終えて、次の修行の場とされる土佐の国入りし、室戸岬を通り過ぎ、高知を経て足摺岬へと向かっている。齢70を前にこれが最後と全員気を引き締めて歩を進めている。
(大岩重雄記)

東京六校76期同期会(昭和39年卒)

1997年7月12日、東京地区では初の同期会を新宿の「キーポイント」で開催。当日は雨にもかかわらず22名が参加、大阪から奥田稔君、清水暁雄君も駆けつけてくれ、出席者ひとりひとりの近況報告や高校時代の思い出話などで旧交をあたためた。
(伊藤要一記)

78期同期会卒業30周年総会(昭和41年卒)

平成8年11月3日、午後2時より母校講堂で第一部総会を開催。弦楽四重奏の演奏で始まり、NHKの木村知義君の司会で進行。岸田邦和同期会会長挨拶の後、物故者追悼では担任先生5人と同期生17人の冥福を祈った。出席の8人の先生の紹介、総会議事の後、道浦母都子さんの卓話「短歌は時代の鏡」があった。校庭で150名の全員写真のあと、2階の11教室を使用してホームルーム。3年の時の教室に別れて入り、30分後ハンドベルの合図で、2年時の教室、さらに1年時へと時間をさかのぼった。

6時から第二部のパーティーをブラザ・オーサカで。ここから参加する人もいて、参加者は160名を超えた。再び弦楽四重奏で始まり、林田隆君、植松(中塚)憲子さんの司会で進行。丸山(江川)裕子東京同期会会長の挨拶、村川先生の乾杯。懇談の合間を縫って、2年時クラスの集合写真を撮影。会場の一隅ではCD写真集「第78期北野時代」のデモンストレーションもあり、懐かしい写真が感動を呼んでいた。阿間、岡田(嵐)、越村の応援団3人組のリードで校歌、応援歌「瀬江の水」斉唱、重内利明委員長の開会の挨拶で3時間の宴はお開きとなった。このあと第3部の2次会にも80名が参加。興奮はなかなか冷めなかった。
(岸田知子記)

79期同期会総会(昭和42年卒)

学級幹事会で話し合い、より親しみのある意味深いものになりたいとの意気込みで企画を立て、飯田君の所有するモーツァルトサロンで念入りにリハーサルも済ませた。各テーブルには懇談の際の話のまとめ役としてテーブルリーダーを配した。

日時:97年7月5日午後5時30分開宴

場所:ブラザ・オーサカ (司会 辻ひろ子)

1.開会の挨拶 学年理事 山崎恵水

2.趣旨・経過報告 学年理事 高橋正雄

3.アトラクション

1)イエスタデー

チェロ 飯田精三、ピアノ 寺岡千秋

2)マイフェアレディより

ヴォーカル 中嶋美枝子、寺岡修

ピアノ 中嶋令嬢、チェロ 飯田精三、

ナレーション 辻ひろ子

4.コント「同窓会」 増井隆美、西山博

5.会食、懇談

6.意見まとめ発表 各テーブルリーダー

7.閉会の挨拶 喜多正顕、新宅久美子

参加者は67名。30年ぶりの再会に楽しい一時を過ごした。
(増井隆美記)

81期同期会(昭和44年卒)

81期は、ここ数年「81」にちなんで8月第1土曜日に、同期生・劉由紀さんの西梅田のお店で同期会を開いているが、昨年度は入学30周年記念に当たり10月12日に母校で開催した。恩師14名のご出席を賜り、全国から男性48人女性41人が集まった。

第1部は講堂で入学式再現。開会の辞、物故者黙祷の後、六稜の星の記章輝く詰襟姿の沖見陽二郎君が「入学者宣誓」ならぬ「力強く高齢者社会を支え抜こう」との「中年宣言」を。寺田先生の不思議のうちに30年を行き来するような式辞にも大爆笑。第2部は母校120周年式典で上映された「映像で見る北野」のビデオを母校教員の鎌田俊一君の説明つきで鑑賞。第3部では2教室でミニ講義。1組は藤森・稲葉・博本先生、2組は吉田・柏尾・玉井先生。

懇親会は六稜ティールームで、さらに劉さんのお店での2次会へと盛り上がった1日であった。なお、宝塚歌劇団専属カメラマンの沖見君撮影の記念写真は全員美男美女に写っていると評判。

(和田多喜子記)

99期同期会(昭和62年卒)

4月12日、母校において「卒業10周年同窓会」と銘打って、先生11名、生徒105名の出席のもと、第1部として校舎にて模擬授業、第2部としてティールームでパーティーを開催した。この同窓会を記念して99期ホームページをオープンした。

先生や同期生の近況、当日のレポートなどを掲載している。今後、ミニ同窓会や恩師を囲む茶話会などをサポートしていく予定。なお、プリント・アウトしたレポートが欲しい方はご連絡ください。

連絡先: 松本裕子 (Tel.&Fax. 078-934-5367)

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~piro/kitano99/index99.htm>

六稜ゴルフの集い

六稜には(1)期別対抗、(2)クラブ対抗、(3)天高定期戦の3大ゴルフ・トーナメントがある。

【第7回クラブ対抗ゴルフ】1996年9月12日、三田カントリー27に12クラブ・69名が集った。上位3名のグロスで競って野球部がハンドボール部を11打差で破った。

1. 野球部246	7. サッカー部293
2. ハンドボール部257	8. 卓球部301
3. 陸上部271	9. 剣道部303
4. 応援団279	10. ラグビー部306
5. 水泳部285	11. 山岳部311
6. バレーボール部287	12. 柔道部313

※個人成績は以下の通り。

①神宅(67期,ハンド) ②磯村(72期,野球) ③赤尾(64期,野球)

【第10回桃陰六稜親善ゴルフ大会】昨年12月に予定していた第10回天高定期戦は悪天候のため順延され、4月3日に両校あわせて88名が参加し三田ゴルフクラブ27にて開催された。過去の戦績は北野が7勝1敗1分けと一方的だったが今回は天王寺が必勝を期して選手層を充実。一方主力選手を欠いた北野が勝ちを譲り、これで7勝2敗1分けとなった。

方式は男子上位20名、女子上位5名のグロス合計で争われ、今回は桃陰2306点、六稜2418点であった。男女上位選手の成績は次の通り(北野のみ)。

男子	女子
1. 阿山輝彦(68期)87	1. 森本亜子(68期)94
2. 京谷嘉二(65期)88	2. 明瀬津多子(66期)107
3. 塚田雄一郎(71期)88	3. 鈴木富美子(67期)109
4. 岩下大輔(58期)89	4. 平岩洋子(69期)110
5. 国米 宏(66期)90	5. 山田昭子(69期)120
6. 中西藤和(66期)90	
7. 斎藤 明(75期)90	
8. 高谷安英(68期)91	
9. 神宅寿昭(67期)92	
10. 鈴木良太郎(67期)92	



伝言板

★元剣道部員を対象に、兼ねてからの懸案でありましたOB会の設立「六稜剣友会(仮称)」発足に向け、準備しています。剣道部OB相互の連絡および親睦を深め、あわせて母校剣道部の発展に寄与することを目的とし、現役部員との合同稽古、合宿や定期戦等の後援、また、相互の連絡通信などを行なうことを検討しています。

現在、長束達也(69期)、西野敏克(72期)、荒木茂幸(73期)、村上安秀(77期)、林田隆(78期)、石倉秀敏(84期)、徳岡聡一(91期)の各氏をはじめ、有志の方々

【第8回期別対抗ゴルフ】6月22日、三田カントリー27に147名が参加、58期から80期までの親睦が図られた。各期の1・2・3・5・7位の合計で順位を決定。去年に引き続き71期がまたも優勝の栄冠を手にした。

優勝 71期430	9位 65期484
2位 68期442	10位 70期484
3位 67期453	11位 78期486
4位 72期453	12位 76期494
5位 73期453	13位 63期517
6位 66期473	14位 77期521
7位 74期480	15位 75期524
8位 69期481	

(57・62・64・80期はオープン参加)

※個人成績は以下の通り。

男子①今井(71期) ②奥田(73期) ③上條(68期)

女子①森本(68期) ②明瀬(66期) ③久保田(73期)

最近「同期会」模様

本欄に紹介した以外にも六稜生の集いは各地で行なわれていると思う。そんな中で、最近の同期会の様子をかいつまんで御報告しよう。

卒業して20年ぐらいつと、周年記念同期会を催すようである。96年には68期(40周年)、78期(30周年)が、97年には79期(30周年)がそれぞれ開催。若い99期も10周年を開いている。81期は入学30周年を祝った。

最近では母校を会場とすることも多い。2部構成で総会を講堂で、パーティーを近くのホテルでするケースや、食堂でパーティーを済ますケースもある。現校舎が無くなるという思いが、母校での開催を多くしているのであろうが、学校での開催は管理上、現職の先生や事務室にお世話になることが多い。感謝の気持ちを忘れないようにしたい。

熟年世代は同期会と称して旅行やゴルフを楽しんでいるようである。東西から集まって旅行したり、中間地点で宴を開催したり…。男子に修学旅行のなかった世代が歳を経て実施するというのもよく聞くハナシだ。大挙して中国旅行した期もあり、毎年海外旅行を楽しむ高齢の期もあるそうだ。

に御協力いただき、名簿の整理確認作業を進めております。

前記の趣旨を御理解の上、元部員の皆様のお力添え並びに元部員の連絡先をご存知の方はご一報頂きたいとお願いいたします。今年12月30日にはOB会(できれば六稜剣友会発足総会)の開催を予定しておりますのでご参加の程、よろしく御願いたします。

連絡先：徳岡浩二(92期)

〒532大阪市淀川区新高6-6-2

phone.06-499-0701(勤務先)

fax.06-499-2223



母校の窓

■職員異動

【御退職】.....

山崎 浩和校長(H6～)が、3月で退職されました。3年にわたる任期中、北野に対する熱い思いを胸に事にあたられ、同窓会活動にも惜しむことのない深い理解と協力をいただきました。現在は、被昇天女子短期大学教授としてご活躍です。

浅田 弘治先生(生物,S38～)は34年に及ぶ北野での職員生活を終えられて退職になりました。

船所 武志先生(国語,H4～)は府立教員をご退職になり、四天王寺国際仏教大学で国語学・国文学の教鞭を執られることになりました。

橋野 佳美先生(養護助教諭,H8～)は3月でご退職になりました。

【御転任】.....

平田 雅子先生(国語,S59～,在職13年)は茨木西高校へ

安藤 哲先生(社会,S60～,在職12年)は西淀川高校へ

上田 守先生(数学,S62～,在職10年)は池田北高校へ

木本 和利先生(英語,S62～,在職10年)は高槻北高校へ

それぞれご転任になりました。

【御着任】.....

秋田 典昭校長が、大阪府教育センタ一次長から、新校長として着任されました。(Sec.→p.4)

山形 徹先生(国語) 大冠高校から

吉田 ゆみ先生(社会) 吹田東高校から

黒田 真樹先生(数学) 八尾北高校から

富山 一紀先生(数学) 豊中養護学校から

福本 宏樹先生(英語) 新任

【御不幸】.....

鍛冶 明広先生(数学,H6～)が、昨年8月ご在職半ばにしてお亡くなりになりました。

小林 二郎先生(国漢,S6～23)が昨年9月に佐々木 晃先生(教頭,S49～55,55期)が本年1月に

竹谷 新先生(社会,S23)が本年2月に

北村 尚郎先生(数学,S39～47)が本年4月に

梅原 義一先生(英語,S5～9)が本年6月に

木村 昌義先生(社会,S54～H3)が本年6月にお亡くなりになりました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■全国大会出場激励金

【平成8年度】(平成8年8月以降).....

国民体育大会 スキー競技

松岡 岳洋(2年)

近畿高等学校なぎなた選手権大会

宮島 良子(2年)

【平成9年度】.....

全国高校囲碁選手権全国大会 個人戦の部

船橋 俊輔(囲碁将棋部,1年)

全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 団体戦の部

佐々木 俊介(囲碁将棋部,3年)

船橋 俊輔

全国高等学校総合体育大会 登山競技の部

窪田 創・三善 哲雄・

網野 和也・大島 啓幸(山岳部,3年)

※以上の団体・個人に、規定に従って激励金が授与されました。ありがとうございました。

なお、山岳部は4年連続インターハイ出場を果たし、本年は見事全国第3位の栄誉に輝きました。

■平成8年度文化活動振興賞、

平成9年度文化活動助成金

ともに、該当者なしという結果となりました。

■平成9年度文化祭記念講演

今年の記念講演は、6月10日(火)に、本校講堂において、お二人の卒業生をお招きして、行われた。

【午前部の部】.....

富田 昌宏氏 (78期,S41卒)

神戸大学経済経営研究所助教授

『経済学と歴史学のはざままで —— 歴史学の効用』

【午後部の部】.....

中原 秀一郎氏 (84期,S47卒)

朝日放送(株)アナウンサー

『言葉の大切さ』

■クラブだより

.....運動部(50音順)

【合気道部】合気道は形にとらわれると微かな動きができなくなります。少しでも合気道を理解できるように暗中模索しながら練習しています。

【器械体操部】新入部員もたくさん入り、夏休みの大会に向けて日々練習を重ねています。1年のほとんどは初心者であるが、努力のかいあってコーチから「賞がとれる」とお墨つき

を戴きました。

・96年府立高校大会

規定 山分和也 跳馬1位 個人総合6位

・96年大阪高校総合体育大会

山分和也 跳馬4位

・97年春季大阪高校総合体育大会

山分和也 跳馬2位

※夏休みの活動予定

7月24・25日 府立高校大会

8月7・8日 二部大会

8月26・27日 大阪高校総合体育大会

【剣道部】今年もたくさんの1年生が入部して部員が40名近くになり、試合に向けて1年も2年も一緒に真剣に楽しく剣道をしています。

・大阪高校総合体育大会

男女ともに二回戦敗退

・新人戦ブロック予選

女子団体 中央大会進出

個人 男女ともに中央大会進出

・全国高校剣道大会ブロック予選

男子個人 中央大会進出

女子団体 中央大会進出

・全国高校剣道大会大阪府中央大会

女子団体 二回戦敗退

※他に天王寺・長田高校と定期戦等。

【硬式野球部】「甲子園出場」のために日々厳しい練習に励んでいます。限られた時間の中でしか練習できませんが、一球一球に集中して目標に一步でも近づきたいと思っています。

・96年秋季大会

一回戦 ○ 11-0 佐野工

二回戦 ○ 4-2 大塚

三回戦 × 2-4 春日丘

・97年春季大会

一回戦 × 2-9 大体大浪商

・定期戦

○ 13-3 天王寺

× 1-2 市岡

※今後の活動予定

合宿 8月16日～20日

秋季大会 9月初旬

【サッカー部】現在3年11名、2年26名、新入生16名、計53名で秋季大会に向け練習に励んでいます。

・96年定期戦

○ 2-0 天王寺

・96年秋季大会

一回戦 × 1-2 都島工

・97年新人戦

一回戦 ○ 6-0 初芝富田林

二回戦 × 0-1 刀根山

・97年春季大会

二回戦 ○ 4-3 守口北

三回戦 ○ 2-0 佐野

四回戦 ○ 0-0, PK3-2 刀根山

五回戦 ○ 2-1 泉陽

六回戦 × 0-1 産大附(府下Best16)

サッカー部・創部50周年記念イベント決まる!! 平成10年の天王寺戦を記念イベントとし、長居第二競技場で実施する予定です。OBの皆様のご協力をお願いします。

【山岳部】 96年夏山は北岳、農鳥岳縦走。秋山は大峰山系、弥山、釈迦ヶ岳縦走。97年夏山は槍ヶ岳、双六岳、笠ヶ岳縦走。秋山は小浜-京都の鯖街道60km縦走予定。

・96年全国高校登山大会

男子A隊26位

・96年大阪高校秋季登山大会

男子B隊2位

・97年夏、京都北山で行なわれるインターハイに出場（4年連続）。

【柔道部】 現在、部員は7名ですが、毎日みんな集中して一生懸命修業に励んでおります。柔道場に掲げられている嘉納治五郎直筆の書「自他共栄」の精神を忘れず、これからも頑張りますので暖かいご支援をお願いします。

・96年 大阪高校総合体育大会

団体戦二回戦敗退

北地区新人戦二回戦敗退

・97年 インターハイ予選一回戦敗退

天高戦(勝抜き戦)1人残り勝利

(点取り戦) 5-4で勝利

【水泳部】 夏の限られたシーズンの中、中央・近畿・全国大会を目指して日々の練習に力を注いでいます。

・96年7月 三校戦 3位

8月 高校総体 林下10位入賞

(50m自由型)

市岡戦 2位

9月 北摂大会 総合3位

大手前戦 2位

新人戦

・97年6月 地区大会

中央大会 伊藤8位

(100m/バタフライ)

※活動予定

7月 近畿大会、長田戦

8月 高校対抗、市岡戦、

府立対抗、北摂大会

9月 大手前戦、新人戦

【ソフトボール部】 1年8人、2年7人でとても元気に頑張っています。一戦一戦を大切に、内容のよい試合を目指しています。いつでも応援に来てください。

府立大会 ○ 11-0 高槻北

○ 7-3 刀根山

× 0-14 守口北

特別大会 ○ 4-1 富田林

× 1-3 堺商業

第一学区大会 6勝0敗 優勝

つくし杯 5勝1敗 準優勝

インターハイ予選

二回戦 ○ 12-0 関西短大附

三回戦 × 0-4 浪花女子(Best32)

※なお、来年は創部50周年になります。OGの方々の結集、組織作りをぜひともお願いします。連絡は北野高校・鎌田まで。

【卓球部】 今、卓球部には2年生がいません。1年だけで練習しています。余り強くありませんが、とても雰囲気の良いクラブです。部員は13人ですが、女子部員が1人なので、募集中です。

【女子テニス部】 部員は少ないけれど、それぞれの目標に向かって毎日練習に励んでいます。今はいろいろな試合に前にがんばっています。

・団体戦

大阪公立対抗 Best4

大阪高校秋季大会 Best32

同 春季大会 Best16

・個人戦

大阪総体 鶴田 Best6

鶴田・戸島ペア(ダブルス) Best64

近畿大会選考戦 鶴田 Best16

大阪サマージュニア 鶴田 Best16

戸島 Best32

夏季高校オープン 戸島、林(本戦出場)

大阪高校春季大会 鶴田、戸島、川瀬、

森本(本戦出場)

【男子テニス部】 部員は少ないですが、個々がさらなる向上を目指して、日々厳しくかつ充実した練習を行っています。

・公立高校団体 3位

・大阪高校オープン シングル

柳田 Best4、富永 Best16、

大黒・日野 Best32

・赤坂杯(秋)ダブルス

日野・西久保 Best4

・ウィンタージュニア(C級)シングル

日野 Best4

・大阪ジュニア シングル 柳田 Best64

・春季総体 シングル 日野 Best64

ダブルス 森・柳田 Best8

・春季団体 本戦出場

【女子バスケットボール部】 小柄なチームですが、バスケットに対する熱意は負けません。一生懸命練習して強くなりたいと思っています。先輩のみなさん、少人数ですので、いつでも来てください。

・96年大阪高校総体

2回戦敗退

・96年大阪高校北地区公立大会

ブロック優勝、総合4位

・96年大阪高校新人大会

中央大会出場、一回戦敗退

・97年全国高校総体大阪予選

四回戦敗退

・97年定期戦 ○ 59-24 天王寺

※活動予定

・97年大阪高校総体 8月12日～

・97年大阪高校北地区公立大会

10月～11月頃

【男子バスケットボール部】 限られた練習時間の中で練習をより充実したものにしようと日々努力しています。忙しい中、来てくださるOBの方にはとても感謝しています。これから公式戦へ向けて、チーム一丸となって一つでも多くの試合に勝てるようがんばっていきましょう。

・96年公式戦(8/16)

一回戦 × 54-59 箕面

・96年公立リーグ(9/16)

× 58-60 吹田

○ 64-53 吹田東

同(10/12)

× 55-78 大冠

○ 74-63 高槻南

同(11/9)

○ 76-40 池田

○ 111-59 高槻北

・96年天高戦(11/10)

○ 90-37 天王寺

○ 48-46 //

・97年新人戦

一回戦(1/12) ○ 86-59 阿武野

二回戦(1/15) ○ 68-59 西野田工業

三回戦(1/19) × 71-106 千里

・97年四校定期戦(4/4)

× 67-71 神戸

○ 76-73 灘

・97年公式戦

一回戦(4/27) ○ 114-22 鶴見工業

2回戦(4/29) ○ 71-66 岸和田

3回戦(5/3) ○ 68-58 同志社香里

4回戦(5/4) × 39-74 春日丘

【バドミントン部】 男子は府下団体ベスト8を、女子は団体ベスト16を目指しています。一週間に一度でも、放課後に体育館で練習させたいと思います。OBの方、練習を見に来てください。

・96年大阪高校総体

単2部 池田優勝、笹瀬 Best8

複2部 池田・矢野組 準優勝

・97年春の大会

団体戦 男子 Best16

単2部 中嶋 Best16、笹瀬 Best32

複2部 羽鳥・伊藤組 Best8

中嶋・笹瀬組 Best32

【女子バレーボール部】 現在2年11人、1年7人、マネージャー4人、計22人で力を合わせてがんばっています。今年の目標は一部に昇格することです。

時々練習見に来てください。

- ・大阪高校総体 ○ 2-0 摂津
× 0-2 阿武野
○ 2-0 西淀川
- ・府立高校大会 × 0-2 刀根山
○ 2-0 山田
○ 2-0 摂津
- ・部別大会 × 0-2 阿武野
× 0-2 長尾
○ 2-0 四条畷
(2部残留)
- ・新人大会 × 0-2 汎愛
- ・天高戦 × 1-2 天王寺

【男子バレーボール部】 今年は去年よりも小柄なチームのため、全員バレーでチーム一丸となって1部優勝、近畿大会出場を目指してがんばります。OBの方、お忙しいと思いますが、機会があれば体育館にお越しになってご指導の程よろしく願いたします。

- ・96年大阪高校総体 × 0-2 茨木
○ 2-0 渋谷
- ・96年府立高校大会 ○ 2-0 箕面東
× 0-2 春日丘
○ 2-1 島本
- ・96年秋の部別大会 × 1-2 近大付
○ 2-1 狭山
○ 2-0 阪南大(1部2位)
- ・97年春の高校バレー ○ 2-0 北陽
× 0-2 四天王寺羽曳丘
- ・97年西田杯 ○ 2-0 高槻
○ 2-0 豊中
○ 2-0 高槻北
○ 2-0 摂津
○ 2-0 箕面
× 0-2 大阪学院(準優勝)
- ・97年春の部別 × 0-2 関西創価
○ 2-0 大体大浪商
○ 2-0 箕面学園(1部2位)
- ・97年豊能地区大会 ○ 2-0 大教大附池田
○ 2-0 刀根山
○ 2-0 箕面学園
○ 2-1 渋谷
× 0-2 箕面
○ 2-1 刀根山
- ・97年近畿地区予選 ○ 2-0 此花学院
○ 2-0 美原
× 0-2 太成
- ・97年天高戦 ○ 2-1 天王寺

【ハンドボール部(女子)】 チームワークの良さで、今年は中央大会出場を

目指してがんばります。

- ・97年春季総合体育大会ブロック予選 一回戦 × 13-22 東淀川
- ・97年定期戦 新人 × 8-22 天王寺
現役 ○ 17-16 //

【ハンドボール部(男子)】 今年は新入部員も少なくないへんですが、地道に練習してもっと強くなれるようにがんばります。

- ・97年春季総合体育大会ブロック予選 一回戦 ○ 21-9 東淀川
二回戦 × 17-18 千里
- ・97年定期戦 新人 × 10-16 天王寺
現役 × 13-21 //

【ラグビー部】 現在、全国大会にむけて練習に励んでおります。

- ・96年定期戦 × 12-19 洛北
○ 29-5 神戸
- ・96年全国大会予選一回戦(兼定期戦) × 10-75 天王寺
- ・97年新人戦 × 23-52 都島工
- ・97年春季大会 二回戦 ○ 23-5 大体大浪商
三回戦 × 10-33 千里

【陸上競技部】 現在、部員36名で活動しています。最近では部員数も減ってきて成績もまいちですが、走り込めばそれだけ記録は伸びると信じて毎日がんばっています。公式戦でその成果を発揮したいと思いますので、ぜひ見に来てください。よろしく願います。

- ・第50回大阪インターハイ地区予選 4×100mR 44秒09
4×400mR 3分28秒14
砲丸投げ 増井夏樹 13m29
- ・大阪高校駅伝大会 男子 総合23位 2時間25分32秒
女子 総合21位 1時間26分15秒

.....文化部(50音順)

【囲碁・将棋部】 5月に大阪府高等学校囲碁選手権大会に出場。個人戦で船橋(1年)が準優勝し全国大会へ、また佐々木(3年)も3位に入り、団体戦でも準優勝した。

現在部員数は少ないが、囲碁将棋の楽しさを味わいながら、さらに強くなろうと日々精進している。囲碁将棋に興味のある者、またさらに強くなりたい者、そしてまったくの初心者も入部して充実した活動を満喫している。今後も上に述べた大会のほか、春には合宿も予定しており、さらに充実したクラブを目指して、部員一同努力して

いく所存である。

【園芸同好会】 六稜園芸店97年文化祭～今年も種から育てた苗(ハーブを中心としました)の販売を行ないました。収益金は全て阪神大震災の被災者の方々に寄付しました。

・現在会員が3年生のみのため、夏までの活動予定(旧図書館横花壇の水やり等)しかたっていません。常時会員募集中です。

【化学研究部】 文化祭では、部員が演示実験を行ないました。その内容は、液体窒素、巨大シャボン玉、電気パンなどです。

現在はミョウバンの結晶づくりに取り組んでいます。その日の気温など予測しがたい要素に左右されることが多いのですが、根気強く続けていくつもりです。

【コーラス部】 新入部員が入り、講堂のピアノも新しくなり、コーラス部はますます元気に楽しく活動しています。今年度も「第一ブロック音楽会」と「芸術文化祭」に参加を予定しています。

- ・第14回第一ブロック音楽会(96/10)
- ・校内音楽フェスティバル(96/11)
- ・芸術文化祭(97/2)
- ・新入生歓迎演奏会(97/4)
- ・文化祭(97/6)

【写真部】 6月に行なわれた文化祭では校舎の写真や北野の日常の記録写真を展示しました。部員は3年2名、1年1名です。

【吹奏楽部】 現在、2年18人、1年15人の33人で毎日活動しています。活動も活発になり、コンクールに向けて部員一丸となって頑張っています。

- ・大阪府吹奏楽コンクール(96/7/29) 優秀賞 地区代表
- ・大阪府大会(96/8/11) 優秀賞
- ・第14回第一ブロック音楽祭(96/10/12)
- ・第18回芸術文化祭(97/2/9)
- ※これからの活動予定
- ・大阪府吹奏楽コンクール(97/7/29)
- ・大阪府大会(97/8/11)
- ・関西大会(97/8/25)
- ・第15回第一ブロック音楽祭(97/11/16)

【生物研究部】 現在、2年3人、1年3人の計6人で活動しています。今年度の主な実験の計画は、前年度に引き続き、プロトプラストの作成、イカの発光バクテリア、アサガオの日照時間による花の咲き方、淀川での水鳥調査(冬期)などです。さらに新しく細胞融合後の組織培養、ニワトリのシャーレ

内での発生の観察などにも挑戦するつもりです。
生物研究部の一層の発展を目指して頑張っていきたいと思います。

【美術部】

・全大阪高校美術工芸展に出品
・第一ブロック展に出品

どちらにおいても100号キャンパスの作品は個性的かつダイナミックな印象を見る人に与えたのではないのでしょうか。今年もこれらの展覧会に出品する予定。

その他、文化祭では油絵やアクリル画などを展示。たくさんの方々に来ていただきました。

部員は17名。本館3階の美術教室で活動中です。現在抱えている最大の悩みは男子部員がいないこと。この悩みが解消するのはいつのことになるのやら。

【物理研究部】現在、BASICによる様々なプログラミングの他、MIDI音源を使った作曲等の活動を行なっています。また、インターネットやWindowsに関する質問・相談・指導など、新しいことにも挑戦していくつもりです。

【文芸部】平成8年度は部誌『幻』を4冊発行。また本年度の文化祭では『幻』を3冊発行、同時に『竹取物語』について展示しました。

3年生7名はこれで引退となりましたが、4名もの新入部員(1年生)を迎えました。これからも活気ある部をめざしてがんばっていくつもりです。

【放送部】私たち放送部(KBC)は7月現在、3年生5人、1年生7人の計12人で月曜日～金曜日に朝10分間、昼30分間の校内放送をメインに和気あいあいと活動しています。その他には

FM局でのDJ、水泳大会や体育大会、クラブの大会時のアナウンスなどもやっています。

文化祭では去年までは放送劇を上演していましたが、今年は食堂前で「昼放拡大Live version」を行いました。この夏も毎年恒例のKBS京都主催の「こちら青春放送部」に自作の放送劇で参加する予定です。

●編集後記

表紙を見て驚かれたことと思う。ホームページ開設とともに六校同窓会の広報活動が大きく変わる。その変化をまず本誌の変化で感じていただきたい。ホームページなんてどうして見たらいいのかわからないという方のために、事務局でご覧いただけるよう計画中。(K)

■大学合格者一覧 (H9.4.24現在)

国立	男	女	計
帯広畜産大学	1	0	1
北海道大学	5	1	6
東北大学	0	2	2
筑波大学	2	1	3
千葉大学	3	1	4
電気通信大学	0	1	1
東京大学	3	2	5
東京芸術大学	0	1	1
東京工業大学	1	0	1
東京農工大学	1	0	1
一橋大学	2	0	2
横浜国立大学	1	0	1
富山大学	0	1	1
福井大学	1	0	1
静岡大学	1	0	1
名古屋大学	2	2	4
名古屋工業大学	1	0	1
三重大学	1	0	1
滋賀大学	3	0	3
滋賀医科大学	1	1	2
京都大学	46	11	57
京都教育大学	3	0	3
京都工芸繊維大学	6	1	7
大阪大学	43	17	60
大阪外国語大学	1	3	4
大阪教育大学	2	6	8
神戸大学	31	23	54
神戸商船大学	1	0	1
奈良教育大学	0	1	1
奈良女子大学	0	7	7
和歌山大学	1	0	1
岡山大学	0	2	2
広島大学	3	1	4
徳島大学	2	0	2

愛媛大学	1	0	1
高知医科大学	1	0	1
九州大学	1	0	1
長崎大学	1	1	2
琉球大学	1	0	1
合計	173	86	259
公立	男	女	計
金沢美術工芸大学	0	1	1
静岡県立大学	0	1	1
滋賀県立大学	1	1	2
京都市立芸術大学	0	3	3
京都府立大学	1	2	3
大阪市立大学	11	9	20
大阪府立大学	23	9	32
大阪府立看護大学	0	2	2
神戸市外国語大学	0	1	1
神戸市看護大学	0	1	1
神戸商科大学	0	1	1
姫路工業大学	3	0	3
兵庫県立看護大学	0	1	1
奈良県立医科大学	1	1	2
和歌山県立医科大学	1	0	1
広島女子大学	0	1	1
北九州大学	0	1	1
九州歯科大学	1	0	1
合計	42	35	77
私立	男	女	計
慶応義塾大学	17	4	21
上智大学	5	1	6
中央大学	5	0	5
東京理科大学	9	2	11
早稲田大学	23	3	26
京都女子大学	0	7	7

京都薬科大学	2	11	13
同志社大学	86	23	109
立命館大学	67	16	83
龍谷大学	14	4	18
大阪工業大学	8	0	8
大阪薬科大学	1	13	14
関西大学	85	39	124
関西医科大学	3	2	5
近畿大学	17	15	32
関西学院大学	52	37	89
甲南大学	3	14	17
神戸女学院大学	0	13	13
神戸薬科大学	0	5	5
武庫川女子大学	0	8	8
合計	397	217	614
短大	男	女	計
名古屋医療技術短	0	1	1
京都大医療技術短	0	1	1
大府看護大医療技術短	0	1	1
神戸市看護短	0	1	1
合計	0	4	4
準大学等	男	女	計
防衛学校	4	0	4
合計	4	0	4
専修学校等	男	女	計
大阪市大附看護専門	0	1	1
明治東洋医学学院	0	1	1
合計	0	2	2
就職	男	女	計
大阪市公務員	1	0	1
合計	1	0	1

六稜同窓会124周年総会 開催のご案内

六稜同窓会総会は同窓会員全員に参加資格があり、六稜同窓会の活動方針や予算がここで決められます。また例年、各界で活躍しておられる会員による卓話があります。今回は詩人の杉山平一さん(44期)にお願いしました。その後の懇親パーティーは、会場を近くのプラザ・オーサカに移して行います。幹事役は78期が担当し例年になく企画が登場します。ぜひ友人お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

日時 1997年10月26日(日)

総会の部 (会場 北野高校講堂)

受付開始 12:00

総会・卓話 12:30~13:45

懇親パーティ (会場 プラザ・オーサカ)

14:15~16:00

会費

5,000円

※ただし105期(H5卒以降(卒業5年以内)と53期(S15卒)以前の方は無料

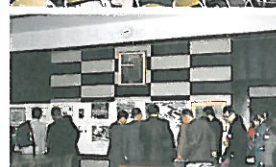
卓話

「詩のこころ」杉山平一(44期)

【すぎやま・へいいち】旧制松江高校から東大文学部美学科卒。大学時代から詩作を始める。関西詩壇を支える詩人として活躍。今年、全2巻合計1,300ページからなる『杉山平一全詩集』を出版し注目された。高校時代からの映画好きで、映画評論でも知られる。帝塚山学院短期大学名誉教授、大阪シナリオ学校校長等をつとめる。



SUGIYAMA Hei-ichi



※昨年(1996年)の123周年総会の模様

総会・理事会の開催●毎年10月末か11月初めに全会員を対象に総会を開いています。総会後の懇親パーティーは、世代を越えた縁のつながりを実感できる貴重な機会であり、また各界で活躍中の卒業生による卓話も好評を得ています。卒業後5年以内の会員は無料招待ですので、ぜひ参加して下さい。理事会は各期の学年理事により構成され、基本的には年に1~2回、5~6月に開催しています。また常任理事(約20名)による常任理事会は年に5~6回、開かれています。

会報、ホームページによる広報●年に一度、9月頃に「六稜会報」を全会員に郵送し、在学中の生徒にも配布しています。同窓会の事業内容の紹介、会員に関するニュース、同期会の情報、母校の現況などをお伝えします。さらに今年からインターネットに六稜同窓会ホームページを開設し、タイムリーな情報をいち早くお知らせするほか、さまざまな角度

から北野の過去を語り未来を論じる、あらたな情報発信としてのメディアを目指しています。

会員名簿の発行●5年に一度、全会員のデータを記載した名簿を発行し、希望者に頒布しています(最新のもは平成5年発行の創立120周年記念名簿で、次回は平成10年発行の予定です)。会員の消息は、常時、

会員への情報提供サービス●各期の学年同窓会の企画の相談に応じたり、また事務局で把握しているその期の会員名簿やタックシールのPrint Outも引き受けています。また、クラブのOB名簿の照合 確認にも応じていますが、各OB会からの情報提供も大歓迎です。パソコン・コピー機も備えていますので、同期会の案

起により、生徒の文化部・同好会の顕著な文化的活動の顕彰・育成を目的に文化活動振興賞と助成金の制度が設けられています。さらに、平成5年の創立120周年記念行事・事業には学校・PTAと一体となって取り組み、その成果の一つとして現在、校内に北野高等学校国際交流基金が設置されています。

今後の活動目標●平成12年に予定されている新校舎の竣工・完成にあわせて、いまのテニスコート奥の森の一角に、同窓生の芳志による新しい同窓会館の建設を計画中です。単なる同窓生交歓のためのスペースであるにとどまらず、資料館としての機能も持たせ、いわば六稜文化の継承・創造のための情報発信基地として機能させたいと願っています。

お願い●以上、紹介した活動のすべては会員の年会費(年額3,000円)によって支えられています。毎年、会報送付の時に振込み用紙を同封していますので、ぜひご協力ください。

六稜同窓会はこんな活動をしています。

あなたの年会費がその絆を支えているのです。

同窓会事務局のコンピューターで管理しており、また名簿発行に先立ち、全会員に登録事項の照合を行ない、最新のデータを掲載するよう努めています。何よりも会員諸氏からの情報提供の豊かさと確かさが名簿の命です。ご協力を切にお願いいたします。

内の準備・発送作業などにも利用して下さい。

母校の教育活動に対する支援●生徒のクラブ・個人の近畿大会や全国大会出場に際して、お祝いと激励の意味を込めて大会出場激励金を授与しています。また、同窓会本体の活動ではありませんが、同窓生有志の発

六稜会報はインターネットでもご覧になれます。バックナンバーも逐次、掲載の予定です。乞う、ご期待。

<http://www.rikuryo.or.jp/magazine.html>

六稜会報
No.31

発行日 平成9年9月15日
発行者 稲畑勝雄
編集委員 岸田知子・鎌田俊一・寺井あかね

発行 六稜同窓会
〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 大阪府立北野高等学校内
phone.06-306-0374(代) fax.06-306-1335
郵便振替.00990-4-68025
郵便振替.00910-7-309004 (名簿申込専用)

デザイン T&T Design Lab.
〒562 箕面市今宮3-17-9
phone.07-27-29-4706 fax.07-27-28-6522
印刷 フジエフォート印刷
〒579 東大阪市東豊浦町4-25
phone.07-29-87-8254 fax.07-29-86-1165